

平成 29 年度

# 「基礎学力調査」

— 分析・考察 —

平成 29 年 10 月  
石川県教育委員会

# 目 次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 本書の構成              | 1  |
| 1 教科に関する調査について     |    |
| 2 質問紙調査について        |    |
| 本書の活用にあたって         | 2  |
| I 教科に関する調査結果の分析・考察 | 3  |
| 《小学校第4学年 国語》       | 6  |
| 《小学校第4学年 算数》       | 12 |
| 《小学校第6学年 社会》       | 20 |
| 《小学校第6学年 理科》       | 26 |
| 《中学校第3学年 社会》       | 34 |
| 《中学校第3学年 理科》       | 40 |
| 《中学校第3学年 英語》       | 46 |
| II 質問紙調査結果の分析・考察   | 53 |
| 1 小学校第4学年児童の調査結果   | 55 |
| 2 学習・生活状況と正答率との関係  | 62 |
| 3 教員の調査結果          | 64 |

# 本書の構成

## 1 教科に関する調査について

### (1) 全体的な傾向の分析・考察

- ・全体的な結果の状況

### (2) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

| 正答率            | 「到達状況」を示す記号, 用語 |
|----------------|-----------------|
| 90%以上の場合       | ◎：良好である         |
| 80%以上～90%未満の場合 | ○：概ね良好である       |
| 70%以上～80%未満の場合 | ◇：基準に到達している     |
| 60%以上～70%未満の場合 | ▽：十分とはいえない      |
| 60%未満の場合       | ▼：不十分である        |

- ・分析・考察及び学習指導に当たって留意すべきこと等
- ・参考となる他の指導事例や調査問題
- ・「指導改善のポイント」

### (3) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

|   | 項目       | 内容   |
|---|----------|--|
| ① | 問題と解答の状況 | ・設問番号, 領域・分野, 出題の狙い, 評価の観点<br>・関連問題<br>・正答例, 誤答例, 正答率, 誤答率, 無解答率 |
| ② | 指導改善に向けて | ・解答状況の分析・考察<br>・指導改善の具体的なポイント                                    |
| ③ | 改善事例     | ・学年, 単元 (指導内容等)<br>・指導のねらい<br>・具体例                               |

- ・関連する「学びの12か条<sup>プラス</sup>」(巻末資料参照)の項目を右のように示す。

学びの12か条+ ○

## 2 質問紙調査について

### (1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較, 学年間比較

### (2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

### (3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの調査結果

# 本書の活用にあたって

「教科に関する調査結果の分析・考察」のページでは、以下のように、取り上げた問題に関連した指導事例や調査問題、指導にあたって留意すべきこと等を記載してあります。今後の授業の参考、取組の検証にご活用ください。

The screenshot shows a survey analysis interface with the following elements and callouts:

- Callout 1:** Points to the 'Other reference guidance cases' section.
- Callout 2:** Points to the 'Reference survey questions' section.
- Callout 3:** Points to the 'Learning guidance' section.
- Callout 4:** Points to the 'Points for improvement of guidance' section.

Key data points from the screenshot:

- Header: 〇学校第〇学年 教科
- Summary: 県平均正答率 〇〇.〇% | 学校正答率
- Section (2): 領域・分野ごとの分析・考察
- Table: 出題の趣旨 [設問番号]

| 設問番号 | 問題の内容 | 正答率 | 学校正答率 |
|------|-------|-----|-------|
| 〇    |       | 〇〇% |       |
| 〇    |       | 〇〇% |       |
| 〇    |       | 〇〇% |       |

## ① 参考となる他の指導事例

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」に掲載されている事例
- (県) … 「基礎学力調査－分析・考察－」に掲載されている事例
- (P) … WEB サイト「学力向上プログラム」に掲載されている事例

## ② 参考となる調査問題

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 全国学力・学習状況調査で出題された問題
- (県) … 本県の基礎学力調査で出題された問題
- (P) … WEB サイト「学力向上プログラム」に掲載されている評価問題

## ③ 学習指導にあたって

取り上げた問題について、調査結果を受け、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを、箇条書きで記載しています。

## ④ 指導改善のポイント

今年度の調査結果より、特に課題が見られた問題について、指導改善のポイントを記載しています。



# I 教科に関する調査結果の分析・考察



小学校 第4学年  
「国語」「算数」

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 72.3%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

29年度の平均正答率は72.3%で、28年度より11.2ポイント上がり、基準に到達している。経年で出題している設問により明確になった課題について、それを解決するための指導が計画的に行われたことが、主要因である。特に「話すこと・聞くこと」においては、スピーチメモ等の作成を通して「話の組み立て」を考えさせる指導が定着したと考えられる。しかし、辞書の使い方の理解については課題が見られ、指導の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

**【話すこと・聞くこと】 (県平均正答率 56.8%) (学校正答率 %)**

**◎：話の中心に気を付けて聞き、感想を述べること〔一四〕**

話し手への質問や感想の内容についての理解は良好である。

| 設問番号 | 問題の内容  | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------|--------|-------|
| 一四   | 聞き方の工夫 | 92.8%  | %     |

今後も、話の内容や話し方に関心を持ち、自分の経験と結び付け

(県) H26：一二 H27：一三 H28：四

たり自分の考えと比較したりしながら聞くことができるように、聞く活動を意図的に設定することが大切である。なお、その際には、聞く視点を明確に示すことに留意する必要がある。

**▽：間の取り方、言葉の抑揚や強弱などに注意して話すこと〔一三、三〕**

設問一三、三の正答率は、28年度の類似問題より上回ってはいるが、基準には到達していない。指導に当たっては、今後も、次のようなことに留意する必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容  | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------|--------|-------|
| 一三   | 話し方の工夫 | 63.0%  | %     |
| 三    | 話し方の工夫 | 67.9%  | %     |

(県) H26：事例1 (県) H27：一三 H27：一三(2) H26：一三

- ・話し方を工夫した発表と工夫のない発表を比べる活動を通して、工夫の効果について考えさせること
- ・言語活動を通して、話し方の工夫について気付かせるとともに、そのよさを実感させること

**【書くこと】 (県平均正答率 73.4%) (学校正答率 %)**

**○：文章をよりよい表現に書き直すこと〔八二〕**

設問八二の正答率は28年度の類似問題を大きく上回った。「自分で想像して書く」という学習が充実し、よりよい表現についての理解が進んだと考えられる。また、語彙を増やす指導が計画的に行われるようになってきたことも一因であると考えられる。

| 設問番号 | 問題の内容       | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-------------|--------|-------|
| 八二   | よりよい表現に書き直す | 86.9%  | %     |

(P) 2012：小三

(全) H26：三 (県) H27：八二 H23：七三 H22：七三

**▽：文章の間違いなどに気付き、正すこと〔八一〕**

設問八一については、p.8参照。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容  | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------|--------|-------|
| 八一   | 間違いを直す | 63.9%  | %     |

(県) H23：七三

- ・書いた文章を読み返す習慣を、低学年から身に付けさせること
- ・読み返す際には、学年に応じた視点をもたせること (p.9参照)

**【読むこと】 (県平均正答率 73.2%) (学校正答率 %)**

**◇：段落相互の関係を考え、文章を読むこと〔二二〕**

書かれている内容を基に、複数の段落を一まとまりと捉えて読むことは基準に到達している。

| 設問番号 | 問題の内容   | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------|--------|-------|
| 二二   | 段落相互の関係 | 72.7%  | %     |

今後も、複数の段落を一まとまりと捉えて見出しを付けたり要約したりする活動を通して、内容を整理させる指導を継続して行うことが大切である。

(県) H28：二二 H27：二一 H26：二一 H24：二二

**▼：目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読むこと〔二四〕**

設問二四の正答率は、不十分である。

| 設問番号 | 問題の内容         | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------|--------|-------|
| 二四   | 説明的文章の内容理解と活用 | 49.0%  | %     |

色を示す語に着目してそれぞれの色が示す役割や効果を捉えることは、概ねできているが、その読み取った情報を活用することに課題があると考えられる。

(県) H25：事例1 (県) H28：二一 H27：二一 H26：二一

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

- ・自分の課題を解決するためにいろいろな文章を読み、それらの内容を選択して課題解決に生かす経験をさせること

**【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】(県平均正答率 70.1%) (学校正答率 %)**

**▽：文の中における修飾語と被修飾語との関係について理解すること〔四②〕**

設問四②の正答率は十分とはいえない。主語である「花が」を、「さいた」に係る修飾語であると答える誤答が多かった。

| 設問番号 | 問題の内容      | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|------------|--------|-------|
| 四②   | 修飾と被修飾との関係 | 64.6%  | %     |

(県) H28：五② H22：二一

「修飾語」や「係る」という言葉そのものについての理解も含めて、修飾と被修飾との関係についての理解が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

- ・「修飾語」「係る」などの言葉を押さえながら、修飾語と被修飾語の関係について確実に指導すること
- ・書くことの学習において、修飾と被修飾の関係が効果的に使われているかという視点をもって文章を読み返すこと

**▼：辞書の使い方を理解し、目的に応じて利用すること〔三1, 2(1)〕**

設問三1, 2(1)については、p.10参照。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

| 設問番号  | 問題の内容    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|----------|--------|-------|
| 三1    | 図鑑の使い方   | 40.3%  | %     |
| 三2(1) | 国語辞典の使い方 | 55.6%  | %     |

(県) H24：事例2 H21：事例2 (P) 2009：小3 (全) H23：A 8 (県) H28：三1 H24：三1

- ・国語辞典の決まりや使い方を段階的に指導し、ゲーム的要素を取り入れたりしながら、国語辞典の使い方を習熟させること
- ・他教科でも国語辞典を活用する機会を設けること

**指導改善のポイント**

- 自分の書いた文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正す学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 表現したり理解したりするために必要な語句について、国語辞典を利用して調べる方法を確実に理解させるとともに、調べる学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 1・2・5

ア 事例1

自分の書いた文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正す学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野 | 出題のねらい  | 評価の観点 |
|------|-------|---|-------|
| 八 1  | 書くこと  | 文章の間違いなどに気付き、正すことができる。<br>正しい仮名遣いで表記することができる。 | 書く能力  |

八 1 【物語】を読み返した林さんは、「おねいちゃんと」と「近づいてくるはずです」の部分に文字のまちがいを一字ずつ見つけました。(例)のように、「近づいてくるはずです」の文字のまちがいを、正しく直しましょう。

え  
(例) おね ~~え~~ ちゃんと      近づいてくるはずです

| 正答例                          | 誤答例  |       |
|------------------------------|--|-------|
| づ<br>近 <del>え</del> いてくるはずです | <ul style="list-style-type: none"> <li>・句点(.)を付け足したもの</li> <li>・漢字を丁寧に書き直したもの</li> <li>・二つの「ず」を、両方とも「づ」に直したもの</li> </ul> |       |
| 正答率(準正答率)                    | 誤答率  | 無解答率  |
| 63.9%(2.0%)                  | 20.8%  | 15.4% |

② 指導改善に向けて

文字の間違いに気付き、正しい仮名遣いで書くことを求める問題であるが、誤答率も無解答率も高かった。要因としては、普段から書いた文章を読み返す習慣が付いていないことや、正しい表記についての理解が不十分であること等が考えられる。

指導に当たっては、文字の正しい表記を1年生で確実に指導するとともに、書いた文章を読み返す習慣を低学年から身に付けさせる必要がある。また、自分の書いた文章を読み返させる際には、学年に応じた視点をもたせることが大切である。

③ 指導改善事例 第1学年 段階を踏んだ書くことの学習 光村一年 上・下

1 指導のねらい

- ・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正す。(書くことエ)
- ・長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」、及び「を」を文の中で正しく使う。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ))

2 具体例

「ねことねっこ」(教科書上P42・43) …促音の表記

「おばさんと おばあさん」(教科書上P46・47) …長音の表記

「おもちゃと おもちゃ」(教科書上P56・57) …拗音の表記

指導のポイント

- ・音読の際に、対応する文字を指で押さえさせたり、一音一音に合わせて手拍子をさせたりして、表記と音の対応関係に気付かせる。
- ・「おもちゃ」と「おもちゃ」など、似た表記の言葉を並べて提示し、促音や長音、拗音のあるなしによって、言葉の意味が違ってくることに気付かせる。

正しく表記できるように

1学期に、促音や長音、拗音の表記や、助詞「は」「を」「へ」の表記を、確実に指導します。



既習内容を教室に掲示し、他教科でも正しい表記で書くことを意識させましょう。

「は(を)へをつかおう」(教科書上P76・77) …助詞「は」「を」「へ」の表記

指導のポイント

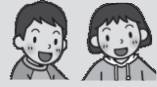
- ・助詞「は」「を」「へ」を、「わ」「お」「え」と視覚的に区別できるように、カードや色チョークを効果的に活用する。
- ・「ことばのあとにつく『は(を・へ)』」や、「くっつきの『は(を・へ)』」のように、助詞「は」「を」「へ」の呼び名を決める。

「こんな ことを したよ」(教科書上P96・97)



①と②を比べてみましょう。

②と比べると、間違いが見付けやすいよ。



字の間違いがあると、読みにくいね。

指導のポイント

- ・間違いを見付けさせながら、文章に間違いがあると読みにくいことにも気付かせる。
- ・児童の実態に応じて、一文節ずつ、または一文ずつ比較させてもよい。
- ・表記の間違いのある文章を別に準備し、適用問題として使うとよい。

表記の間違いに気付けるように

① しゃぼんだまあそび  
たかしま はるか  
わたしわ、せえかつかで、しゃぼんだまあそびお、しました。おうきな、しゃぼんだまが、じよずに、つくれました。  
おかさんにも、みせたかたです。

② しゃぼんだまあそび  
たかしま はるか  
わたしは、せいかつかで、しゃぼんだまあそびを、しました。おおきな、しゃぼんだまが、じよずに、つくれました。  
おかあさんにも、みせたかたです。

「しらせたいな、見せたいな」(教科書下P17~20)

「まちがいを なおそう」(教科書下P21)

分かち書きをしていない文章でも、表記の間違いを見付けられるように、指導しましょう。  
(なお、教科書には、右の例文と同じ文章が、分かち書きで掲載されています。)



『まちがいを なおそう』の学習で文章を見直す際の視点を示し、「見なおしカード」を使って自分の書いた文章を見直すように、単元を構成しましょう。

十が二十五に、にちようびきようわ、おばあちゃんはいえいききました。わたしわ、はなにみずをやるてつだいおしました。みずをやりすぎないようにきおつけました。おばあちゃんに、「ありがとう。おはながげんきになったよ。」といわれました。

拗音等の表記の間違いの他に、助詞「は」「を」「へ」の表記の間違いを自分で見付けて直せるように

見なおしカード

だい( )  
なまえ( )  
・たたく、かけているか、じぶんで、見なおしましょう。

見なおすこと

|   |                |  |
|---|----------------|--|
| ① | ことばのあとにつく「は」   |  |
| ② | ことばのあとにつく「を」   |  |
| ③ | ことばのあとにつく「へ」   |  |
| ④ | 小さくかく「や」「ゆ」「よ」 |  |
| ⑤ | 小さくかく「つ」「つ」    |  |

上のわく…見なおしたら、○をかきましよう。  
下のわく…まちがいを見つけてなおしたら○、まちがいがなかったら◎をかきましよう。

指導のポイント

- ・文章を見直す際の視点を示す。

「いい こと いっぱい、一年生」(教科書下P124~127)

自分の書いた文章を見直し、表記の間違いを見付けて正しく書き直せるように



もう、書いた文章を自分で見直せますね。「見なおしカード」を使って、見直しましょう。

見直しが終わったら、友達と読み合ひましょう。

間違いがなくて、読みやすかったよ。



「見なおしカード」を使ってよかったわ。

指導のポイント

- ・児童の実態や指導事項に合わせて、右の視点等を追加してもよい。

- ・文のおわりに、まる(。)
- ・「…が」「…は」の下に、てん(、)
- ・ならったかん字
- ・はなしことばに、にかぎ(「」)

【各学年の見直しの視点の例】

2年生

- ◇原稿用紙の書き方との適合
  - ・句読点やかぎ「」の位置
  - ・段落で1マス空けること
  - ・句読点は一番上のマスには書かないこと など

3・4年生

- ◇主語と述語や、修飾語と被修飾語の関係の明確さ
- ◇文末表現の使い方
  - ・敬体と常体
  - ・断定や推量、疑問
- ◇よりよい表現

5・6年生

- ◇表現の効果



イ 事例2

表現したり理解したりするために必要な語句について、国語辞典を利用して調べる方法を確実に理解させるとともに、調べる学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号         | 領域・分野                | 出題のねらい                         | 評価の観点           |
|--------------|----------------------|--------------------------------|-----------------|
| 三 1<br>2 (1) | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 国語辞典の使い方を理解し、目的に応じて利用することができる。 | 言語についての知識・理解・技能 |

三 2 (1) 「すぼみます」の「すぼみ」の言葉を国語辞典で調べようと思いますが、「すぼみ」のままでは、国語辞典にのっていません。国語辞典にのっている言葉の形に直し、に書きましょう。  
すぼみ →

| 正答例          | 誤答例                   |      |
|--------------|-----------------------|------|
| すぼむ          | ・しぼむ ・しぼみます ・つぼむ ・つぼみ |      |
| 正答率 (準正答率)   | 誤答率                   | 無解答率 |
| 55.6% (0.0%) | 40.3%                 | 4.1% |

② 指導改善に向けて

国語辞典の使い方を理解し、目的に応じて利用することを求めた問題である。語彙力を高めるためには、国語辞典を日常的に使用することが効果的である。しかし、活用語尾を終止形に直すという知識が定着しておらず、なじみのない言葉に出会ったときに国語辞典を使って調べる活動が不足していることが窺える。

指導に当たっては、語句の意味を調べる以外にも様々な場面・用途で国語辞典を活用し、児童自身がそのよさに気付くことが大切である。また、「早引き」などのゲーム的要素を取り入れながら、短時間で国語辞典を引く活動を繰り返し行う中で、活用語尾を終止形に直して目的の語句を探し出す技能も高める必要がある。

③ 改善事例 第3学年『国語辞典のつかい方』 光村三年上

1 指導のねらい

- ・国語辞典ではどのようなきまりで言葉が示されているかを知り、必要に応じて国語辞典を活用することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ (カ))

2 具体例

単元計画 (全2時間)

国語辞典の使い方に興味をもち、その使い方を理解し、分からない語句を調べる。

1時 国語辞典の言葉の並び方の決まりを知る



皆さんの使っている国語辞典には、約2万～3万語が載っています。

国語辞典には、**は**やく**か**んたんに**せ**いかくに言葉を調べられるように、いろいろな工夫があるのですよ。

1・2年生で、五十音を縦横すらすらに言えるように、指導しておきましょう。



言葉ってこんなにたくさんあるんだ！この中から一つの言葉を調べるのは難しそうだな。





<< はやくかんとんにせいかくに言葉を調べるための、国語辞典のひみつを見付けよう >>  
 <見出し語はどんな順番で並んでいるのかな>

「つめ」をつかうと、はやくかんとんに言葉をさがせるんだね!

「はしら」を見ると、このページにあるかどうか、はやくかんとんに分かるんだ!

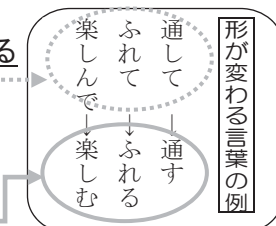
どちらが先に  
出ているかな?

暮らす クラス  
ボール ボール  
バレエ バレエ  
じゅう じゅう

**ひみつその1 見出し語は五十音順に並んでいる（1字目から調べよう）**  
 (①清音→濁音→半濁音 ②小さい字・片仮名は後 ③伸ばす音は「あいうえお」に置きかえられている)

**2時 終止形に直して調べることや意味の見付け方を知る**  
 <形が変わる言葉は、どうやって調べるのかな>

後ろに「ない」や「た」、「て」などを付けると、形が変わる言葉があります。そのような言葉は、「言い切りの形」にして調べましょう。



「言葉で遊ぼう」より  
 …人々は、むかしから言葉遊びを通して、言葉のおもしろさにふれてきました。あなたも、言葉遊びを楽しんでみましょう。

**ひみつその2 形の変わる言葉は、「言い切りの形」に直して調べる**

「ふれて」は、「ふれる」という形でのっているんだね。

<ぴったりの意味を見付けるにはどうしたらいいのかな>

本文には「おもしろさにふれてきました」と書かれているね。

「おもしろさ」は手でさわれないから、①は当てはまらないよ。

⑤の意味を本文の「ふれて」の部分に当てはめてみたら、「おもしろさにかかわりあう」となって意味が通じそうだよ。

そうだね。だとすると、⑤の意味がぴったりだ。

- ①ふれる 【触れる】
- ②さわる
  - ③当てる
  - ④目・耳など
  - ⑤あること
- あやで知む①ふれる  
うある知らくさわる【触れる】  
ああるらせるさからう。当た  
関時せる。④目・耳③  
するなどに⑤あること  
出にかあわ  
あかかわり

その言葉が使われている文章の流れをつかむと、せいかくに意味を選べたよ。



国語辞典にのっている例文も参考になるね。

**ひみつその3 言葉にいくつもの意味があるときは、その言葉が使われている文章の流れをつかんで、意味を当てはめてみると、ぴったりの意味が見つかる**

ひみつ1・2・3を使えば、はやくかんとんにせいかくに調べられるね。

くり返し国語辞典を使っていくうちに、上手に調べられるようになりますよ。

**課外 早引きゲームをする**

【教師が準備するもの】  
 言葉を5～10個記載したワークシート  
 【やり方】  
 ・それぞれの言葉が、国語辞典の「何ページにあったか」「上中下のどの段にあったか」を、ワークシートに書き込む。  
 ・早く書き終えた人（又はグループ）が勝ち。

| ③回して |   | ②くふう |   | ①あたたかい |   | 言葉  |
|------|---|------|---|--------|---|-----|
| 上    | 中 | 上    | 中 | 上      | 中 | ページ |
| 下    | 下 | 下    | 下 | 下      | 下 | だん  |
|      |   |      |   |        |   |     |

全員に学校図書館にある同じ国語辞典を使わせれば、答え合わせもできます。

ひみつ1・2・3を指導した後は、他教科でも国語辞典を使う場を意識的に設定しましょう。

高学年になると、複合語を扱う機会が増えます(例：人口密度・穀物自給率)。複合語は、分解してそれぞれの言葉を調べ、それらの意味を合わせて考えることなども、必要に応じて指導しましょう。

また、調べ学習などで百科事典等を使うときにも、索引や「はしら」の活用等について、再度指導しましょう。

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 73.8%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

29年度の平均正答率は73.8%で、28年度より9.5ポイント上がり、基準に到達している。「数と計算」領域の分数の意味と表し方の理解では、28年度より36.2ポイント上回ったが、除法の式の意味を理解することには課題が見られる。また、「量と測定」領域では体積の単位を理解すること、「図形」領域では図形の性質に照らし合わせて図形を判断すること、「数量関係」領域ではグラフを読み取り、示された事柄に対する理由を説明することに課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

**【数と計算】** (県平均正答率 79.3%) (学校正答率 %)

◎：基本的な四則計算をすること [1]

基本的な四則計算については良好である。

設問1(5)の正答率は85.1%で、28年度の設問に比べ8.6ポイント上回った。今後も、基礎的・基本的な技能の習得・習熟に繰り返し取り組むことで、確実に身に付けられるようにすることが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容           | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-----------------|--------|-------|
| 1(1) | 波及的繰り上がりのある加法計算 | 97.6%  | %     |
| 1(2) | 波及的繰り下がりのある減法計算 | 89.9%  | %     |
| 1(3) | 余りのある除法計算       | 94.6%  | %     |
| 1(4) | 整数－分数           | 94.5%  | %     |
| 1(5) | 小数－整数           | 85.1%  | %     |

(全) H27：A2(2) (県) H28：1

▼：除法の式の意味を理解すること [7(2)]

設問7(2)については、p.15参照。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容     | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-----------|--------|-------|
| 7(2) | 除法の式の意味理解 | 49.0%  | %     |

(全) H28：B3(1) B5(1)

- ・式の意味を理解させるために、等分除と包含除の問題場面を比較する場面を設定し、式と図との関連を理解させるための問い返しを工夫すること
- ・問題場面を表した式や数値の意味について図などと結び付けて説明する場を充実すること

**【量と測定】** (県平均正答率 64.2%) (学校正答率 %)

◇：長さの単位の関係を理解すること [4(4)]

28年度の設問に比べ29.2ポイント上回り、基準に到達している。要因は、図を基に長さの見当をつけて紙飛行機が飛んだ距離を求めることができたためと考えられる。単位の関係について理解を深めるとともに、量感を基に予想した量と比べたり自ら図をかいたりして、振り返って確かめる活動を充実させることが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------|--------|-------|
| 4(4) | 長さの単位の関係 | 72.9%  | %     |

(県) H26：事例2 H28：事例2 (県) H27：5(1) H28：3(3)

▼：体積の単位を理解すること [2(3)]

体積の単位の理解については、依然として課題がある。単位mLは日常生活でよく見かける量であるが、量感に基づいた理解が十分でないと考えられる。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------|--------|-------|
| 2(3) | 体積の単位の理解 | 56.4%  | %     |

(県) H22：事例1 (県) H22：3(2) H24：3(1) H25：3(1)

- ・児童の実態に応じて具体物等を用いるなど、量感を豊かにするための学習活動を充実すること
- ・目的に応じて、適切な単位を選択する場面を繰り返し授業の中に位置付けること

**【図形】****(県平均正答率 68.2%) (学校正答率 %)****○：円の中心と半径について理解すること〔7(1)〕**

この設問については、27年度の類似問題より26.2ポイントの伸びが見られ、基準に到達している。今後もコンパスを用いた作図や模様づくりなどの算数的な活動を通して、円の性質の理解を深めていくことが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容          | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------------|--------|-------|
| 7(1) | 円の中心と半径についての理解 | 82.6%  | %     |

**(全) H28 : B 3(3) (県) H27 : 6(1)****▼：図形の性質に照らし合わせて図形を判断すること〔4(2)〕**

複数の条件全てに当てはまる図形を判断する場合には、図形の構成要素に着目させ、それぞれの性質を整理しながら捉えさせたり、既習の図形の性質と比較させたりすることが大切である。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容              | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------|--------|-------|
| 4(2) | 複数の条件全てに当てはまる図形の判断 | 57.8%  | %     |

**(全) H25 : p.15 - 16 (県) H23 : 事例 1**

- ・図形の構成要素を根拠とした図形の分類や作図等の算数的活動を通して、図形の性質についての理解を深められるようにすること
- ・既習の図形について、その図形がもつ性質を見いだしたり調べたりする学習を設定すること

**【数量関係】****(県平均正答率 73.1%) (学校正答率 %)****◎：式で表現された数量の関係を理解すること〔6〕**

式のもつ意味を読み取る設問については良好である。式と図を関連付けて考えることで、式が表す意味や関係を的確に捉えているためと考えられる。今後も、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったりする学習活動を充実させることが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容 | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-------|--------|-------|
| 6    | 式の読み  | 90.1%  | %     |

**(全) H27 : A 8****▼：グラフを読み取り、示された事柄に対する理由を説明すること〔5(2)〕**

設問5(2)については、p.17参照。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容                    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------------|--------|-------|
| 5(2) | グラフの読み取りを根拠とした正しくない理由の説明 | 52.0%  | %     |

**(県) H21 : 事例 1 H27 : 事例 2 (全) H28 : B 4(3)**

- ・グラフを比較するときには、グラフの目盛りの幅や数値に着目する必要があることに気付かせること
- ・グラフから読み取った事実を根拠に事柄を正しく判断したり、批判的に考察したりする場を意図的に設定すること
- ・事象に対して判断したことを説明する場面では、判断した根拠を過不足なく説明できるようにすること

**指導改善のポイント**

- 式が表す意味や式の答えが表す内容を、問題場面と関連付けて考える活動を充実すること (→ 事例 1)
- グラフを批判的に考察し、情報を正しく読み取り、示された事柄に対して判断した理由を、言葉や数を用いて表現する活動を充実すること (→ 事例 2)


ア 事例1  
式が表す意味や式の答えが表す内容を、問題場面と関連付けて考える活動を充実すること

① 問題と解答の状況


| 設問番号 | 領域・分野 | 出題のねらい     | 評価の観点   |
|------|-------|------------|---|
| 7(2) | 数と計算  | 除法の式の意味の解釈 | <ul style="list-style-type: none"> <li>算数への関心・意欲・態度</li> <li>数量や図形についての知識・理解</li> </ul> |

(2) 1つの首かざりを作るのに、リボンを60cm使います。首かざり24こを作るために、今あるリボン1500cmでたりるかを、えりさんは式で考えています。

60cmのリボン



えりさんの式  
 $1500 \div 60 = 25$



えりさん

リボンの長さは、1500cmで  
たります。

えりさんの式は、何を調べるための式ですか。下のア～ウから1つえらんで、に記号を書きましょう。

ア 今あるリボンから、60cmのリボンを何本とることができるか。  
 イ 今あるリボンを、24本にわけると1本分は何cmとることができるか。  
 ウ 60cmのリボンを、24本とるためにひつような長さは何cmになるか。

| 正答例        | 誤答例   |      |
|------------|-------|------|
| ア          | ウ, イ  |      |
| 正答率 (準正答率) | 誤答率   | 無解答率 |
| 49.0%      | 49.4% | 1.6% |

② 指導改善に向けて

7(2)については、等分除と包含除の理解に課題がある。誤答については、問題場面と問題に示された式を関連付けることなく、選択肢と問題文の類似性から選んだことが考えられる。

指導に当たっては、等分除と包含除の違いについて理解できるようにするために、1つの除法の式から2つの問題場面を比較し、具体物や図などで表現する学習活動を設定することが考えられる。その際には、被除数、除数、商それぞれの意味について理解を深めるために、教師が「この式の商は図のどこを示しているのか」等の問い返しを意図的に行うことが重要である。同じ除法の式であっても問題の状況や求めるものが異なることに気付かせ、「式の意味」の理解を深められるようにする。また、除法に限らず、加減乗除の「式の意味」の理解を深めるためには、問題場面から式を導き出したり、式から問題場面を考えたりするなどの学習活動を設定していくことが大切である。

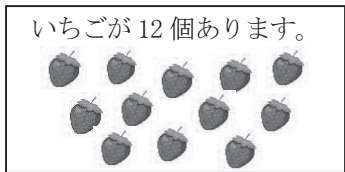


1 指導のねらい

式が表す意味や式の答えが表す内容を，問題場面と関連付けて理解できるようにする。

2 指導例

(1) 問題場面を表した式や数の意味について説明する活動



除法の意味の理解を深める指導について教えてください。

若手の先生



ベテランの先生

等分除「一つ分の大きさを求める」と包含除「いくつ分を求める」について学習した後，等分除と包含除を比較させ，違いに気付かせることが大切です。例えば，「 $12 \div 3 = 4$ 」という1つの式から等分除と包含除の問題場面と図を考えさせてみましょう。



図1・2の様な問題と図を考えると予想されます。問題と図を並べて提示することで，等分除は「一つ分の大きさ」，包含除は「いくつ分」を求めているという違いが分かりやすくなります。



次に，「 $12 \div 3 = 4$ 」の式や商が何を表しているか，図と関連付けて説明させましょう。この時，どのような問い返しの発問が考えられますか。



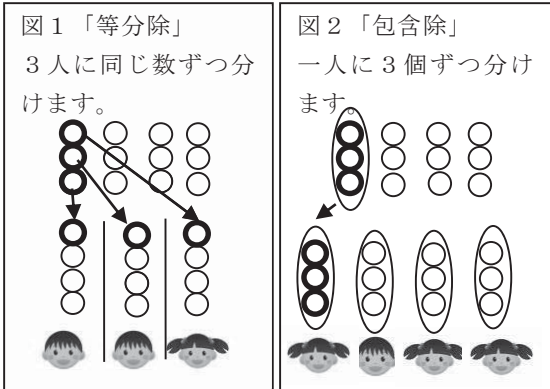
例えば「この式の答えの『4』について，図1・2それぞれを使って説明できるかな」と問い返します。式の数値と図を関連させながら考えさせることで，「除数」「商」の意味の違いが分かりやすくなり，より明確に等分除と包含除の違いに気付かせることができます。



同じ除法の式ですが，問題の状況や求めるものが異なることに気付かせることで，等分除と包含除の「式の意味」の理解を深められるようにします。



「式の数値が何を表しているか」を問い返す発問をすることで，児童が「式が表す意味」や「式の答えが表す内容」の違いを意識できるようにしましょう。



(2) 除法以外の式の意味理解を深める活動例

1年生「たし算」

「式から問題場面をつくり式の意味を捉える活動」

公園の絵を見て， $3+4=7$ になるお話を作りましょう。

【合併の場面】

・ブランコに3人，滑り台に4人います。公園には全部で何人いますか。

【増加の場面】

・公園で3人遊んでいます。あとから4人きました。全部で何人になりましたか。

★具体物の操作と対応させ，たし算の意味を理解できるようにする。

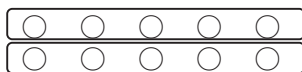
2年生「かけ算」

「2つの問題場面を図に表して式の意味を捉える活動」

あめを2個ずつ5人に配ります。あめは全部で何個ありますか。



あめを2人に5個ずつに配ります。あめは全部で何個ありますか。

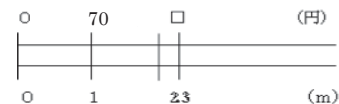


★図から「一つ分の数」「いくつ分の数」を確認しかけ算の意味を理解できるようにする。

5年生「小数のかけ算」

「問題場面を数直線の図に表して式の意味を広げる活動」

1mの値段が70円のひも2.3m分の値段を求める $70 \times 2.3$ の式の意味を説明しましょう。



「70を1とみたとき2.3にあたる大きさを求める計算」

★乗数が小数の場合にも乗法が用いられることを数直線の図などを使って説明し合うことで乗法の意味を広げる。



問題場面と図を結び付けたり，図と式を結び付けたりする過程を丁寧に扱い，児童が式の意味や式の答えが表す内容を確実に理解できるようにしましょう。

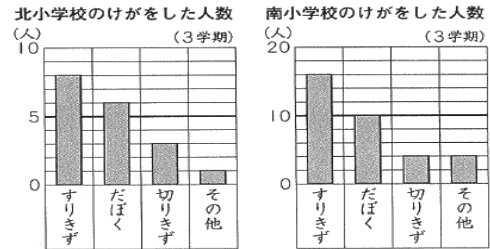
イ 事例2

グラフを批判的に考察し、情報を正しく読み取り、示された事柄に対して判断した理由を、言葉や数を用いて表現する活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野 | 出題のねらい                               | 評価の観点   |
|------|-------|--------------------------------------|---------|
| 5(2) | 数量関係  | グラフから読み取った数値を根拠に、正しくない理由を説明することができる。 | 数学的な考え方 |

5 北小学校と南小学校では、3学期にけがをした人数をグラフにまとめました。次の問いに答えましょう。



(2) えりさんは、北小学校と南小学校のグラフを見て次のように言いました。



えりさん: グラフのぼうの高さが同じだから、北小学校と南小学校では、すりきずをした人数は同じだね。

えりさんの言った「すりきずをした人数は同じ」は正しくありません。そのわけを、グラフから読み取れる人数をもとに、言葉と数を使って  に書きましょう。

| 正答例   | 誤答例  |              |
|---|--|--------------|
| 北小学校の「すりきず」をした人数を表す1目もりは1人で、南小学校の「すりきず」をした人数を表す1目もりは2人で、1目もりの人数が違うからです。 | 北小学校の「すりきず」をした人数を表す1目もりは1人で、南小学校の「すりきず」をした人数を表す1目もりは2人だからです。 |              |
| 正答率<br>52.0%  | 誤答率<br>42.8%   | 無解答率<br>5.2% |

② 指導改善に向けて

5(2)については、1目盛りの大きさの違いなどの根拠となる事柄が不足している誤答が多いことから、1目盛りの大きさに着目してグラフを読み取り、事象に対して判断した理由を言葉や数を用いて表現することに課題があるといえる。要因としては、1目盛りの大きさに着目させるための教師の手立てや、1目盛りの大きさの違いを根拠として批判的に考察し、過不足なく説明する活動等が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、児童が目的意識をもって表やグラフから情報を読み取る学習活動を通して、分析結果を批判的に考察し、根拠に基づいて判断したことを表現できるように指導することが大切である。また、それぞれのグラフの特性を理解した上で、目盛りの付け方を検討したり、複数のグラフを組み合わせたりするなど、グラフの表し方について工夫する活動も大切である。また、複数のグラフを比較しながら読み取ったり、判断したりする活動を取り入れることも考えられる。

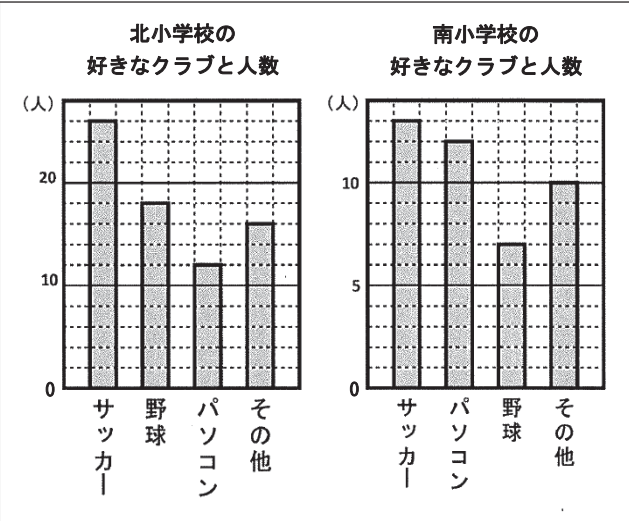
1 指導のねらい

グラフを正確に読み取り、批判的に考察することができるようにする。

2 具体例

(1) 1目盛りの大きさの違いに着目し、棒グラフから正確な情報を読み取る学習活動

1 目盛りの大きさが異なる2つのグラフの分析



好きと答えた人が一番多いのは、どの小学校の何クラブでしょうか？



どちらの小学校もサッカークラブが一番多いです。棒の長さが同じなので、人数も同じだということが分かります。



本当に「棒の長さが同じだから人数も同じ」と考えてもよいのかな？



北小学校のグラフの1目盛りの大きさは2人で、南小学校のグラフの1目盛りの大きさは1人なので、北小学校の方が多いことに気がきました。

どうして人数が違うのに棒グラフの棒の長さが同じなのですか？



1目盛りの大きさが違うので、人数が違って棒の長さが同じになります。グラフを読むときは、1目盛りの大きさを確かめることが大切だと分かりました。

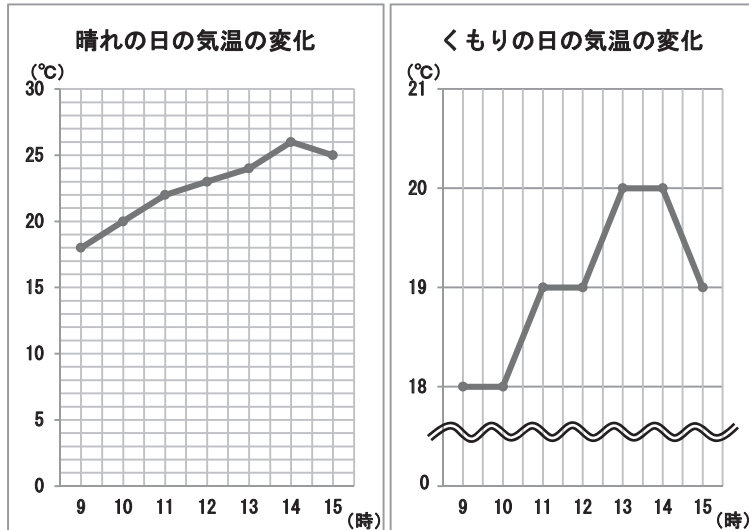


示された事柄に対して判断した根拠を過不足なく説明できるようにするために、教師が「どうして？」等と問い返すことが大切です。そして、児童自らが根拠を明確にさせながら、自分の考えを表現できるようにすることにつなげていきます。

2つのグラフから分かることだけでなく、2つのグラフの違いをはっきりさせることで説明が分かりやすくなりましたね。今の学びを生かして、ペアで説明してみましょう。



(2) 1目盛りの幅や数値に着目し、折れ線グラフから正確な情報を読み取る学習活動



1日の中で気温の変わり方が最も大きいのは晴れの日ですか？くもりの日ですか？



くもりの日のグラフの方が傾きが急なので、くもりの日だと思います。



くもりの日のグラフの方が傾きが急だけど、本当に変わり方が大きいと言えるのかな？



10時から11時を比べると晴れの日には、2°C上がっているけど、くもりの日は1°Cしか上がっていません。晴れの日の方が変わり方が大きいことが分かります。



晴れの日とくもりの日のグラフの1目盛りの幅が違うので、グラフの傾きだけでは比べることができません。



折れ線グラフを比較させるときには、それぞれの1目盛りの幅や数値などに着目させることが大切です。



折れ線グラフなどの資料から情報を正しく読み取ったり批判的に考察したりする力については、他の教科における学習での活用も期待されます。





小学校 第6学年  
「社会」「理科」

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 69.9%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

29年度の平均正答率は69.9%で、28年度より3.3ポイント下がり、十分とは言えない。資料から情報を適切に読み取ることについては概ね良好である。しかし、資料から読み取った複数の情報を比較・関連付けて考察し、キーワードを用いて適切に表現することや、資料からの情報を基に社会的事象について問いをもち、学習問題を設定することについて、依然として課題が見られ、指導のさらなる工夫・改善が求められる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

**【地域学習】** (県平均正答率 75.0%) (学校正答率 %)

○：石川県の伝統工芸の現状や取組について、資料を基に考察したことを、適切な言葉で表現すること [1(3)]

設問1(3)の正答率の平均は80%を超え、概ね良好である。引き続き、資料から読み取った情報を考察し、適切な言葉で表現する学習を充実していくことが大切である。

| 設問番号  | 問題の内容           | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|-----------------|--------|-------|
| 1(3)A | 石川県の伝統工芸(働く人の数) | 94.3%  | %     |
| 1(3)B | 石川県の伝統工芸(継承)    | 84.3%  | %     |

○：わたしたちの安全な生活を守るために働く人々の仕事を理解し、その工夫や努力について、資料を基に考察し適切に説明すること [3(1)(2)]

設問3(1)(2)は、わたしたちの安全な生活に関して、資料から読み取った情報を基に考察し表現する問題であり、正答率は概ね良好である。資料から読み取った情報から、変化の要因などを考察する学習を意図的に実施することが、今後も大切である。

| 設問番号  | 問題の内容             | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|-------------------|--------|-------|
| 3(1)  | 警察の仕事(交通整理・パトロール) | 93.1%  | %     |
| 3(2)A | 身の回りの危険(被害の減少)    | 94.0%  | %     |
| 3(2)B | 身の回りの危険(防犯ボランティア) | 75.0%  | %     |

▼：資料から読み取った情報を基に考察したことを、必要な言葉を用いて適切に表現すること [1(4), 6(3)]

設問1(4)は、平成28年度の類似問題と比べ、28.7ポイント上回っているものの不十分である。資料から読み取った1つの情報しか記述していなかったり、資料から読み取った2つの情報を比較せず、ただ併記していたりするなどの誤答が見られた。資料から読み取った複数の情報を比較・関連付けて考察し、「日本全体と比べて」等、必要な言葉を適切に用いて表現する学習経験が依然として不足していることが考えられる。

| 設問番号 | 問題の内容        | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------|--------|-------|
| 1(4) | 石川県の農業(水田分布) | 37.2%  | %     |
| 6(3) | ごみの処理(リサイクル) | 47.2%  | %     |

(県) H27：事例2

(県) H28：5(4)

設問6(3)については、p.22参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・資料から読み取った複数の情報を比較・関連付けて考察し、共通点や相違点、因果関係を明らかにする学習を充実させること
- ・課題について考察したことを、社会科で学習した用語や資料の言葉等を適切に用いて表現する学習を充実させること

## ◇：地図帳を活用して、日本の位置と領土について調べ、適切に情報を読み取ること [2(2)]

設問2(2)①は、地図帳を用いて日本の島の名称を読み取り、(2)②は、日本の領域をめぐる国際関係を問う問題であり、正答率はいずれも80%を超え、概ね良好である。しかし、設問2(2)③は、地図帳を用いて東京から与那国島までの距離を読み取る問題であり、正答率が、53.9%で不十分である。

| 設問番号  | 問題の内容                   | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|-------------------------|--------|-------|
| 2(2)① | 日本の位置と領土<br>(北方領土とロシア)  | 83.4%  | %     |
| 2(2)② | 日本の位置と領土<br>(沖ノ鳥島)      | 88.7%  | %     |
| 2(2)③ | 日本の位置と領土<br>(与那国島までの距離) | 53.9%  | %     |

(県) H26：2(2) H28：2(2)

指導に当たっては、地図帳を活用する学習を児童の発達段階に応じて、意図的・計画的に設定する必要がある。また、より一層の効果をねらい、様々な機会を通して活用することも大切である。

## ▼：複数の資料を適切に関連付けて、学習問題として表現すること [5(5)]

設問5(5)については、p.24 参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容        | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------|--------|-------|
| 5(5) | 自動車工業 (学習問題) | 44.0%  | %     |

(県) H26：事例1 H28：事例2 (県) H28：4(3)

- ・資料から読み取った情報等を基に、社会的事象について気付いたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題として適切に表現する学習を充実させること
- ・課題追究の意欲向上を図るため、資料の質や量、見せ方、提示順等を工夫した学習を充実させること

## ▼：資料から読み取った情報と、自分たちの生活とを関連付けて考察したことを、適切に表現すること [4(3), 5(3)②, (6)]

設問4(3), 5(3)②, (6)は、それぞれ不十分である。4(3)及び5(6)では、題意の理解不足から、資料から読み取った情報の記述のみに留まる誤答が多く、題意に応じて適切に表現する力が不足している。また、5(3)②では、国内と海外の合計が総生産台数であることを踏まえていない誤答が多く、資料から読み取った複数の情報を比較・関連付けたことを基に、題意を十分に理解し、適切に表現する力が不足している。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

| 設問番号  | 問題の内容                  | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|------------------------|--------|-------|
| 4(3)  | メディアリテラシー<br>(メディアの利用) | 47.2%  | %     |
| 5(3)② | 自動車工業<br>(生産台数の変化)     | 17.0%  | %     |
| 5(6)  | 自動車工業<br>(電気自動車)       | 23.5%  | %     |

(県) H28：事例1 (県) H28：6(3)

- ・資料から読み取った複数の情報を基に、分かることや関連性を話し合う学習を充実させること
- ・問われていることについて十分に考え、適切に表現する学習を充実させること

## 指導改善のポイント

- 資料から読み取った複数の情報を関連付けて考察し、必要な言葉を用いて適切に表現する力を育成すること (→ 事例1)
- 社会的事象に見られる課題を、主体的に解決しようと多面的・多角的に考察する力を育成すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

資料から読み取った複数の情報を関連付けて考察し、必要な言葉を用いて適切に表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野 | 出題のねらい   | 評価の観点  |
|------|-------|--|--|
| 6(3) | 地域学習  | 我が国のごみの量とリサイクル率に関する資料を基に考察したことを、適切に表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な思考・判断・表現</li> <li>観察・資料活用の技能</li> </ul> |

(3) たろうさんは、資料3と資料4をもとに、ごみを減らすための方法を考え、ノートにまとめました。Cにあてはまる言葉を書きましょう。

[資料3] 日本で1人が1年間に出すごみの量 (kg)

| 年         | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ごみの量 (kg) | 410   | 400   | 380   | 360   | 350   |

[資料4] 国別のリサイクル率 (%)

| 国名順位       | 韓国 1位 | ドイツ 2位 | ベルギー 3位 | 日本 19位 |
|------------|-------|--------|---------|--------|
| リサイクル率 (%) | 65    | 45     | 35      | 20     |

(資料3・4ともに環境省の資料より作成)

**【たろうさんのノート】**

○ごみを減らすための方法  
 日本では、1人が1年間に出すごみの量は減ってきています。しかし、韓国やドイツ、ベルギーなどと比べると、Cことが大切だと思います。

| 正答例   | 誤答例  |                      |
|---|--|----------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>日本はリサイクル率が低いので、もっとリサイクル率を高める</li> <li>日本はリサイクル率が低いので、もっとリサイクルを進める</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本はリサイクル率が低い</li> <li>日本は19位である</li> <li>リサイクル率が下がっている</li> </ul> |                      |
| <b>正答率 (準正答率)</b><br>47.2% (36.3%)  | <b>誤答率</b><br>31.9%  | <b>無解答率</b><br>20.9% |

② 指導改善に向けて

誤答としては、問題文を読み解き、解答として何を求められているのかの理解が十分でないことから、「日本はリサイクル率が低い」など、[資料4]から読み取れる情報にしか触れていないものが多く、【たろうさんのノート】に示されている「ごみを減らすための方法」として、「どんなことを行うことが大切であるか」を考察することができていなかった。また、資料から読み取った複数の情報を関連付けて考察する力も十分身に付いていない。

以上のことから、日頃の学習指導において、本時の学習問題を常に意識し、資料から読み取った情報を根拠に、学習問題に対するまとめを適切に表現する学習を継続して行っていく必要がある。また、資料から読み取った複数の情報を基に考える場合は、それぞれの情報を比較することで共通点や相違点を見つけ出したり、「～だけ～できていない」等と情報を関連付けて因果関係を捉えたりすることなどが大切である。

さらに、学習問題に対するまとめでは、再度、学習問題に立ち戻り、本時の学習を振り返りながら、考えを再構築する活動を確実に取り入れていくことが重要である。そして、キーワードの活用を条件としたり、まとめの文頭や文末のみを示したりするなどして、社会科の学習用語や資料に示されている言葉等を適切に用いた文章を表現できるよう、考えやまとめの書き表し方についての指導と評価を工夫することが大切である。

③ 改善事例 第4学年「水はどこから」

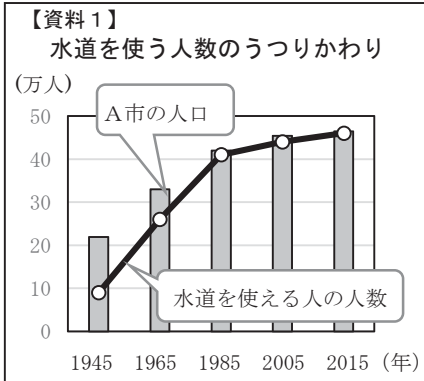
1 指導のねらい

資料から読み取った複数の情報を関連付けて考察し、必要な言葉を用いて適切に表現することができるようにする。

2 具体例

(1) 資料から情報を読み取り、問題意識を高め学習問題をつくる。

時間配分は  
10分程度



資料から分かることは何だろう？

1945年では水道を使う人が半分以下だったけれど、現在はほぼ100%の人が使っているよ。

どうして水道を使える人が増えたのかな。

【学習問題】〈なぜ水道を使える人が増えたのかな〉



市が水道管を伸ばしたり、浄水場を増やしたりして水道を使えるようになったのではないかな。

(2) 学習問題について予想を立て、資料を活用して調べる。

ポイント1：資料から読み取った情報を基に、学習問題に対して自分の考えをもつ。

【資料2】  
A市の水道の広がり

※水道の広がり様子が分かる地図等や市町の水道事業計画に関する資料を準備する。

浄水場建設や配水管設置が順番に行われているよ。時間もお金もかかるし、計画的に進めたんだね。

【資料3】

〇〇浄水場の水が届く所  
※ダムや浄水場、配水管などを示した地図等を準備する。

県が作った□□ダムや〇〇浄水場からの水が、県内の13の市町にも送られているよ。

ポイント2：資料から読み取った複数の情報を比較・関連付けて考え、共通点や相違点、因果関係等を明らかにする。

浄水場がある市や町もあるのに、どうしてダムの水をわざわざ利用しているのかな。2つの資料を結び付けて考えることはできないかな。

浄水場の水を送るために、計画的に少しずつ送水管を伸ばしているところが市の取組と共通しているね。



県も協力して水道水を送ってくるから、市も計画的に水道を増やすことができたのかな。

市も県も、水道を使える人が増えるように、計画を立てて協力して進めたんだね。

(3) 学習問題について、資料から読み取った複数の情報や既習等を根拠に自分の考えをまとめる。

ポイント3：学習した用語や資料の言葉等を活用し、学習問題に対して適切な文章で表現する。



2つの資料から読み取った情報を基に話し合ったことから、まとめに必要なキーワードを2つ選ぼう。

キーワードは、計画的と協力だと思います。

計画的は、2つの資料に共通していることです。浄水場や配水池の建設など長い時間をかけて、場所を考えながら進めています。そして、市と県の協力があつたからできたのだと思います。

県がどんな協力をしているか分かるように、「〇〇浄水場から…」という言葉を入れたらどうか？



なるほど。計画的に進めているという共通点や結び付けて考えると見えてきた協力していることをキーワードにしているね。では、2つのキーワードを必ず使って、課題に対するまとめを書きましょう。

ペアになって、キーワードが2つしっかり入っているか、文の意味が分かりにくいかな確認してね。ペアの人のまとめや意見を参考に、学習した大事な言葉を付け加えるよ。

【まとめ】 水道を使える人が増えたのは、市が浄水場や配水池を増やすなど長い年月をかけ計画的に取り組みを行ったから。また、県が(〇〇浄水場から水を送るなど)市と協力して取組を行ったから。



(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 1, 2

イ 事例2

社会的事象に見られる課題を、主体的に解決しようと多面的・多角的に考察する力を育成すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号  | 領域・分野 | 出題のねらい   | 評価の観点                        |
|-------|-------|--|------------------------------|
| 5 (5) | 産業と国土 | 日本の自動車（ガソリン車）とハイブリッドカーの保有台数の資料を適切に関連付けて、学習問題として表現することができる。 | ・社会的な思考・判断・表現<br>・観察・資料活用の技能 |

(5) まきさんは、資料2と資料3のグラフから学習問題（課題・めあて）をつくり、予想をノートにまとめました。資料2と資料3をもとに、「どうして」から始まり、「だろう。」で終わる学習問題をつくり、Cに書きましょう。

[資料2] 日本の自動車の保有台数 (万台)

(年)

[資料3] 日本のハイブリッドカーの保有台数 (万台)

(年)

(資料2・3ともに自動車検査登録情報協会資料より作成)

**【まきさんのノート】**

○学習問題 どうして C だろう。

○予想 ガソリンをあまり使わないハイブリッドカーに乗りかえた方が、二酸化炭素排出量が減り、環境に良いと思う人が増えたから。

| 正答例  | 誤答例   |       |
|--|---|-------|
| (どうして)<br>・日本の自動車の保有台数はあまり変わっていないのに、ハイブリッドカーの保有台数は増えているの<br>・日本の自動車の保有台数は少しずつ減っているのに、ハイブリッドカーの保有台数は増えているの (だろう。) | (どうして)<br>・日本の自動車の保有台数は少しずつ減っていて、ハイブリッドカーの保有台数は増えているの<br>・ハイブリッドカーの保有台数は増えているの<br>・日本の自動車の保有台数はあまり変わっていないの (だろう。) |       |
| 正答率 (準正答率)   | 誤答率   | 無解答率  |
| 44.0% (26.2%)  | 43.2%   | 12.8% |

② 指導改善に向けて

誤答としては、「ハイブリッドカーの保有台数は増えているの」や「日本の自動車の保有台数は少しずつ減っていて、ハイブリッドカーの保有台数は増えているの」など、1つの資料から読み取った情報のみを記述したものや2つの資料から読み取った情報をそのまま併記したものが多く、「少しずつ減っているのに」のような両者の関係を表す言葉を用いて学習問題の文章として適切に表記することができていなかった。要因としては、学習問題を設定する際、資料から読み取った複数の情報を比較・関連付けし、気付いたことや疑問に思ったことを話し合い、適切な文章で表現したり、問題解決への見通しを立てたりする経験が依然として不足していること等が考えられる。

以上のことから、日頃の学習において、資料から読み取った情報を基に社会的事象について気付いたことや疑問に思ったことを発表し、話し合いを通して情報を関連付けて学習問題を設定していく活動を継続して行っていく必要がある。その際、資料の質や量、見せ方、提示順等を工夫して、児童の課題を追究する意欲の向上を図ることが求められる。また、多面的・多角的に考察する学習については、新しい視点や別の立場から捉えさせる資料を段階的に増やす等して、複数の資料から明らかになった事実をペアやグループそして全体で交流し、整理する場を設定することが必要である。

### ③ 改善事例 第5学年「水産業のさかんな地域」

#### 1 指導のねらい

社会的事象に見られる課題を、主体的に解決しようと多面的・多角的に考察することができるようにする。

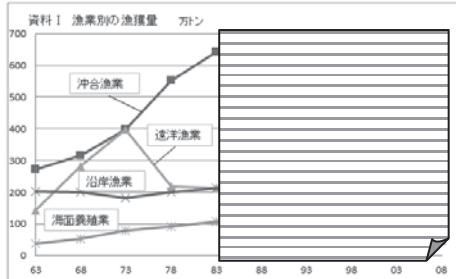
(1)・(2)で  
10分程度

#### 2 具体例 (注) 学習問題を児童とつくる過程を丁寧に示した事例である。

(1) 漁業別の漁獲量の変化のグラフと200海里水域の資料を関連付けて話し合う。

**ポイント1：学習問題設定のために、資料の質や量、見せ方、提示順を工夫する。**

##### ①資料Ⅰの提示（一部を隠す）



資料Ⅰから、どんなことがわかりますか？

沖合漁業の漁獲量が増えています。

遠洋漁業の漁獲量は、1973年頃から減り始めて、1973年から78年の間で半分になってしまったよ。

どうして、遠洋漁業の漁獲量は減ったのかな？

200海里水域ができて、自由に遠洋漁業ができる範囲がせまくなったんだよね。

そうすると、今後は、沖合漁業の漁獲量が増えていくのかな？

追加資料の提示



では、沖合漁業の漁獲量は、どのように変わっていくのかな？見てみよう。

あれ？沖合漁業の漁獲量もどんどん減っているね。

沖合漁業が日本の漁業の中心なのに、漁獲量が減り続けているね。

どうしてだろう？

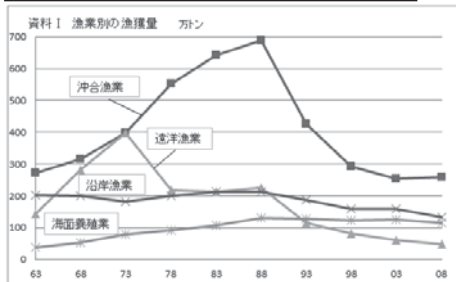
漁師さんが減ったのかな？

魚が捕れなくなったのかもしれないよ？

若い人が漁業を継がなくなったのかな？

日本人が、以前より魚を食べなくなったのかもしれないよ

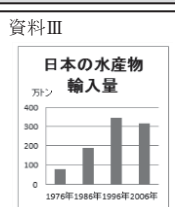
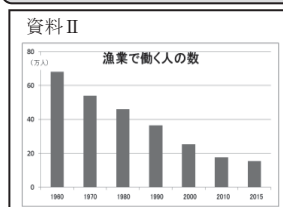
##### ②資料Ⅰの提示（全体を示す）



資料で、確かめてみよう。

(2) 追加資料の情報を基に話し合う。

**ポイント2：資料からの情報を基に、気付きや疑問点を関連付けて話し合い、学習問題をつくる。**



資料Ⅱからは、漁業で働く人が減っていることが分かるね。

資料Ⅲからは、日本の水産物の輸入量が増えていることが分かるね。200海里の規則とも関係がありそうだね。

このままでは、漁業で働く人がなくなってしまうかもしれないね。

でも、資料Ⅰの海面養殖業の漁獲量は少しずつ増えているよ。

きっと、他にもいろいろ工夫をしているんじゃないかな。

これまでの話し合いから、学習課題をつくろう。

**【学習問題】〈日本の漁業で働く人々は、生産量を増やすためにどのような工夫をしているのだろう。〉**

(3) 学習問題について調べたことを交流する。

**ポイント3：いろいろな立場や新しい視点から、多面的・多角的に考察させる。**

予想してみよう。

魚などを増やす工夫

資源を守る工夫

新鮮でおいしい魚を買ってもらうための工夫

追加資料等  
・漁業で働く人を増やす工夫  
・魚介類のブランド化  
・海の再生を目指した山の植林活動等

捕る魚の大きさを決めているよ。小さい魚を保護するために網の目を大きくしているよ。

養殖漁業や栽培漁業を行って、魚介類を増やしているよ。

港に大きな冷凍施設や加工場をついたり、地元の人に新鮮な魚を食べってもらうために港の近くに直売所を開いたりしているよ。

海の中に、魚のすみかになるところをつくっているよ。

魚を遠くに運ぶトラック等のために港の駐車場を広くしているよ。

(4) 学習のまとめをする。

**【まとめ】** 養殖漁業や栽培漁業を行ったり、山に木を植えたりして魚を育て増やす工夫をしている。また、新鮮でおいしい魚介類を消費者に届けるための工夫や資源を守る工夫をしている。地域の水産物をアピールしたり価格を向上させたりするためにブランド化する取組も行われている。

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 59.1%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

29年度の平均正答率は59.1%で、不十分である。仮説の実験方法を構想する場面や、得た情報を多面的・多角的に考察する場面において、解決への見通しをもつこと、また多様な意見を、より妥当な考えとなるよう吟味することに課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

**【物質・エネルギー（エネルギー）】** (県平均正答率 44.3%) (学校正答率 %)

▼：電流の働きの検証方法 [3(3)]

設問3(3)については、p.28参照。指導に当たっては、実験方法を構想する場面で多様な意見を出させ、どの方法がより妥当なのかを、児童の対話によって検討するような学習を、計画的に行うことが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容              | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------|--------|-------|
| 3(3) | 電流の働きの検証方法<br>【構想】 | 45.0%  | %     |

◇：電磁石を強くする方法を理解すること [8(2)]

設問8(2)については、基準に到達しており、無解答率についても低い。要因はコイルの巻数を増やすことで、電磁石が強くなることの理解が進んだためと考えられる。

| 設問番号 | 問題の内容      | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|------------|--------|-------|
| 8(2) | 電磁石を強くする方法 | 77.9%  | %     |

(全) H27：1(5)

**【物質・エネルギー（粒子）】** (県平均正答率 71.7%) (学校正答率 %)

◎：形が変わっても重さは変わらないことを理解すること [1(2)]

設問1(2)については、良好である。H26年度の同様の問題での正答率は90.7%であり、更に改善されている。物質の重さが形の影響を受けないことの理解が定着している。

| 設問番号 | 問題の内容                | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------------------|--------|-------|
| 1(2) | 形が変わっても重さは変わらないことの理解 | 97.0%  | %     |

(県) H26：3(1)②

▼：湯気が液体であることを理解すること [6(1)]

▽：空気と水蒸気の違いから実験結果を推測すること [6(2)]

設問6(1)については、不十分である。湯気の状態が、依然として液体であることが理解されておらず、見えなければ水蒸気、見えれば水蒸気以外という判断ができていない。

| 設問番号 | 問題の内容             | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-------------------|--------|-------|
| 6(1) | 湯気の状態             | 23.7%  | %     |
| 6(2) | 空気と水蒸気の違い<br>【分析】 | 68.1%  | %     |

(全) H24：3(5) H27：3(1)

設問6(2)では、結果として袋の中が曇ったことは理解しているが、水蒸気は加熱をやめると液体に戻り、体積が小さくなるという途中の袋の変化について正しく把握されておらず、十分とはいえない。そのため、次のような指導の充実が求められる。

・実験において、結果だけでなく、その途中の様子についても着目させる指導



**【生命・地球（生命）】****（県平均正答率 70.6%）****（学校正答率****%）****○：日光の必要性を調べるための条件制御を行うこと〔2(3)〕**

設問2(3)については、概ね良好である。調べたい条件以外を統一しておくことに関しては理解が進んでいる。植物の発芽や成長には何が必要か、条件を制御して調べる実験を実際に行っていることが、

| 設問番号 | 問題の内容             | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-------------------|--------|-------|
| 2(3) | 日光は必要かを調べるための条件制御 | 82.6%  | %     |

**（全）H27：1(1)（県）H21：7(1)(2)(3)**

実感を伴った理解につながったと考えられる。

**▼：くもりのときは気温の変化が小さいことを理解すること〔5(1)〕**

設問5(1)は、H28年度の折れ線グラフの午前と午後を逆にした問題である。気温の変化の仕方は天気によって違いがあることの理解は依然として不十分である。誤答には、H28年度同様「気温が下がったから」「午前よりも気温が低いから」など、気温の低さを取り上げているものが多く、晴れの日やくもりの日の特徴について、気温の変化という視点で捉えられていないことが要因として考えられる。そのため、次のような活動を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------|--------|-------|
| 5(1) | 気温と天気の変化 | 34.8%  | %     |

**（全）H24：「解説資料」p.62（県）H28：事例2****（全）H24：4(5)（県）H28：3(2)**

- ・晴れとくもりの天気による1日の気温の変化の特徴を、グラフをもとに比較し表現する活動
- ・実際の気温を継続して記録し、気温の変化からその時間帯の天気を説明する活動

**【生命・地球（地球）】****（県平均正答率 52.1%）****（学校正答率****%）****▼：太陽の動きと影の変化を関係付けて考えること〔4(2)〕**

設問4(2)に関しては、p.30参照。指導に当たっては、方位磁針を使って方位を確認させること、影の動きを基に太陽の動きを表現させる際に、方位を意識させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------------|--------|-------|
| 4(2) | 時間による太陽の動きと影の変化【適用】 | 45.6%  | %     |

**（全）H24：4(3)（県）H25：8(1)(2) H26：8(1) H28：2(1)****▽：流れる水の働きについて理解すること〔7(1)〕**

設問7(1)については、侵食・運搬など理科学用語の定着が十分とはいえない。地面の様子と用語が結び付いていないことが要因と考えられる。流水実験を行った際には、児童の観察記録からどんな地面の変化が流水の3作用なのかをしっかりと捉えさせることが大切である。その上で、川の曲がっているところの土地の様子の違いを、用語を使って説明させる指導が必要である。

| 設問番号 | 問題の内容   | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------|--------|-------|
| 7(1) | 流れる水の働き | 64.4%  | %     |

**（県）H21：2(2)****指導改善のポイント**

- 問題解決のために問題点を把握し、解決の方向性を構想したり、方法を想定したりする学習活動を充実すること（→ 事例1）
- 理科で学んだ自然の事物・現象の性質や働き、規則性などを、日常生活に当てはめて説明する学習活動を充実すること（→ 事例2）

### (3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 1

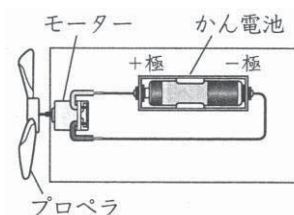
#### ア 事例1

問題解決のために問題点を把握し、解決の方向性を構想したり、方法を想定したりする学習活動を充実すること

#### ① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野               | 出題のねらい                | 評価の観点     |
|------|---------------------|-----------------------|-----------|
| 3(3) | 物質・エネルギー<br>(エネルギー) | 電流の働きの検証方法を考え、表現すること。 | 科学的な思考・表現 |

3 次郎さんは、右の図のような せん風機を作りました。  
しばらく回すと止まってしまったので、より長い時間回したいと考えました。本で調べると、かん電池を2個使って、モーターの回る速さを変えず、長い時間回し続けられるつなぎ方が書いてあったので、試してみました。次の問いに答えましょう。



(3) 次郎さんは、かん電池を2個つないでいるのに、モーターの回る速さが変わらないことを不思議に思い、モーターの回る速さと電流の関係を調べることにしました。次郎さんの考えの①、②にあてはまる言葉を書きましょう。

このときのモーターに流れる電流の強さを ( ① ) を使って調べて、( ② ) のときと比べてみよう。



| 正答例 (準正答例)    | 誤答例                   |      |
|---------------|-----------------------|------|
| ① 検流計または電流計   | ① プロペラ                |      |
| ② かん電池1個 (1個) | ② 直列つなぎ、へい列つなぎ、かん電池2個 |      |
| 正答率 (準正答率)    | 誤答率                   | 無解答率 |
| 45.0% (10.9%) | 51.7%                 | 3.4% |

#### ② 指導改善に向けて

この設問の正答率は45.0%で、不十分である。①の誤答は、何を比べるかが明確ではなかったり、確かめるための装置・実験(条件制御)が妥当でなかったりしたものが見られる。また、②では、どのような結果が得られればよいのか(得られた結果を何と比較するのか)が理解されていないものが多い。

このことから、一人一人に実験の方法を考えさせ、見通しをもって実験の計画を立てさせる場面や、その計画が妥当かどうかを検討する場面を設定し、構想する力を育てていく必要がある。

具体的には、「このことを確かめるためには、こんな装置でこんな実験をして、このような結果が得られれば、こうだと分かる。」という探究過程の見通しをもたせる指導が必要となる。

【構想】を枠組みとした問題は、身に付けた知識・技能を用いて、他の場面や他の文脈において問題点を把握し、解決の方法を構想したり、問題の解決を想定したりすることができるかを問うものである。ここでは、提示された自然の事物・現象について問題を明確にもち、変化したり制御したりすべき変数は何か、どうすれば適切なデータが得られるかなど、解決に向けた方略もっているかどうかをみることになる。

表2. 問題作成の主な枠組み

|                |  |
|----------------|--|
| 主として「知識」に関する問題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>理科に関する基本的な見方や概念などについて「知識」として問うもの</li> <li>理科に関する基本的な観察・実験の「技能」について知識として問うもの</li> </ul>  |
| 主として「活用」に関する問題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>理科に関する知識・技能を「適用」することを問うもの</li> <li>理科に関する知識・技能を用いて、「分析」することを問うもの</li> <li>理科に関する知識・技能を用いて、「構想」することを問うもの</li> <li>理科に関する知識・技能を用いて、「改善」することを問うもの</li> </ul> |

#### <参考>

「平成27年度全国学力学習状況調査解説資料 小学校理科」  
(国立教育政策研究所 教育課程研究センター) より

③ 改善事例 構想する力を育むための事例 第5学年「電流がうみ出す力」

1 指導のねらい

既習の内容や生活経験を基に、問題に対して根拠のある予想や仮説をもち、実験結果を見通しながら実験を計画し、対話的活動を通して、より妥当性の高い検証方法を構想することができるようにする。

2 具体例

**課題** <電磁石のはたらきを大きくするにはどうしたらよいだろうか>

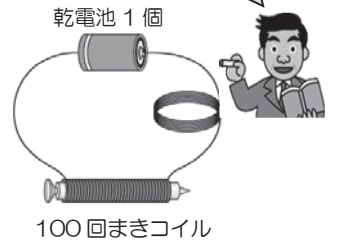
**構想** 乾電池の数（電流の強さ）、導線の巻き数、導線の長さ、導線の太さについて、条件を制御しながら、くっついたクリップの数や重さで定量的に調べる。

- 1 多様な考えが生み出されるように、4年生の学習の直列つなぎを想起させたり電磁石の各部分に着目させたりする。
- 2 予想した方法をグループで出し合い、話し合う中で、「どうしてそれを変わるとはたらきが大きくなるのか」「変える条件と変えない条件は何か」について、根拠と見通しをもって実験計画を立てさせる。

**ポイント** もとの電磁石（乾電池1個・100回巻き）と比べて、クリップの数の違いを明確に捉えられるようにし、結果の見通しまでもてるようにする。

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>仮説</b><br/>かん電池を2個にする</p> <p>↓</p> <p>流れる電流も2倍になり、電磁石の力も2倍になる</p> <p>↓</p> <p>クリップの数も2倍</p> | <p><b>仮説</b><br/>まき数を2倍にする</p> <p>↓</p> <p>太さが2倍になると、電磁石の力も2倍になる</p> <p>↓</p> <p>クリップの数も2倍</p> | <p><b>仮説</b><br/>導線の長さを半分にする</p> <p>↓</p> <p>電流が速く流れるので、電磁石の力も強くなる</p> <p>↓</p> <p>クリップの数も2倍</p> |
|---|--|--|

何を比べるのか、どの時と比べるのかをはっきりさせることが大切だよ。



- 3 電磁石のはたらきの大きさを、数量化して比べさせる。

クリップの数を数える方法と、クリップの重さをはかる方法があるね。



他学年の事例

第4学年「物のあたままり方」

**課題** あたためられた水は、どのように動くのかな

**実験** おがくず、示温インク、何カ所かに入れた温度計などを用いて、あたためられた水の動き方を調べ、記録する。

**ポイント**

あたためられた水の動き方を予想して図にかき、考えと結果を合わせて説明できるようにする



あたためられた水は、金属の時のように、あたためたところから上と横に伝わって全体に広がり、あたたまっていくと思うよ。



あたためられた水は上にいくと思うから、先に上があたたまつて、それから下があたたまると思うよ。



第6学年「水溶液の性質とはたらき」

**課題** 5つの水溶液の正体を調べるにはどうすればよいか

**実験** 単元で学習した5つの水溶液を、既習の知識や技能を用いて実験し、結果から水溶液の正体を明らかにする。

**ポイント**

色を見る、においをかぐ、蒸発させる、リトマス紙を使う、金属を入れるなどの観察・実験方法を、どの手順で行うと効率よく調べられるか話し合う

様子を観察すれば、においのあるのがアンモニア水、泡が出ているのが炭酸水ということが分かりそうだ。



金属を入れてとけたものは塩酸だと分かるね。あとは、蒸発させて何か残るか、リトマス紙で酸性かアルカリ性か調べれば、さらにはっきりするね。



イ 事例2

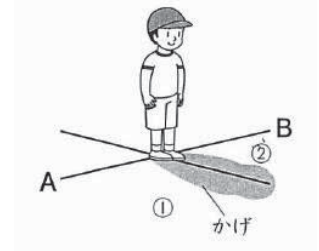
理科で学んだ自然の事物・現象の性質や働き，規則性などを，日常生活に当てはめて説明する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野         | 出題のねらい                 | 評価の観点                             |
|------|---------------|------------------------|-----------------------------------|
| 4(2) | 生命・地球<br>(地球) | 太陽の動きと影の変化を関連付けて考えること。 | ・自然事象への<br>関心・意欲・態度<br>・科学的な思考・表現 |

4 ひろしさんは，太陽と月の動きを調べました。次の問いに答えましょう。

(1) 7月のある日の正午，東西南北に合わせた線を中心に立つと右の図のようなかげができました。このようすから，AとBそれぞれの方位を書きましょう。



(2) 放課後，もう一度同じ場所に立って，かげのようすを調べました。このときのかげは正午のときと比べてどうなっていたでしょうか。次のア～エから1つ選び，その記号を書きましょう。

- ア ①の方に動き，長さは長くなる。    イ ①の方に動き，長さは短くなる。  
ウ ②の方に動き，長さは長くなる。    エ ②の方に動き，長さは短くなる。

| 正答例 (準正答例)   | 誤答例     |      |
|--------------|---------|------|
| ア            | ウ, イ, エ |      |
| 正答率 (準正答率)   | 誤答率     | 無解答率 |
| 45.6% (0.0%) | 54.0%   | 0.4% |

② 指導改善に向けて

設問4(2)では，「影の位置の変化と太陽の動き」「影の長さ」と太陽の高度」を関連付けて考えられるかを問うている。誤答で多いのは，設問4(1)の方位を間違えたことが要因と考えられるものである。設問4(1)の誤答を見ると，南を向いた時の方位を正確に捉えておらず，東西を反対に考えているものが多かった。

このことから，影の位置の変化と太陽の位置の変化との関係を捉えさせるために，方位の確実な定着を図る必要がある。

指導に当たっては，次のような活動の充実が求められる。

・ 方位を意識する活動

方位磁針を使って南を確認し，南を向いた時の左右の方位を全員で確認する。校外学習で，正面に対する左右の方位を問うなど，日常生活の中でも四方位の関係を意識させる。

・ 個々の結果について考察した後，一般化を図る活動

最初に「9時」「正午」「2時」などの，時間ごとの影の位置の変化と太陽の位置の変化との関係を捉えさせた後，連続した動きを考えさせる中で，例えば，4時にはどうなっているかを予想させる。

・ 考えを検証する活動

太陽の位置による影のでき方をモデルで再現し，考えを確認させたり見直させたりする。



③ 改善事例 第3学年「太陽とかげの動きを調べよう」

1 指導のねらい

影の観察結果をもとに、影の位置や長さの変化から太陽の位置がどのように変化していくかを説明することができるようにする。

2 具体例

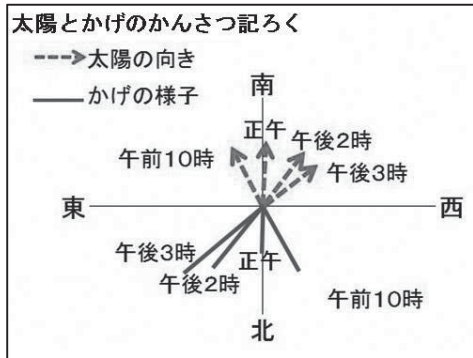
影遊びでは、午前と午後では影の「向き」と「長さ」が違ってきていることに気がきましたね。

影は太陽の光を遮るものがあるとできるから、太陽の動きが関係しているよ。

影の変化から太陽の動きを調べてみましょう。

課題 くかげが変化したのは太陽がどう動いたからかな

○一日の影の動きについてまとめる。



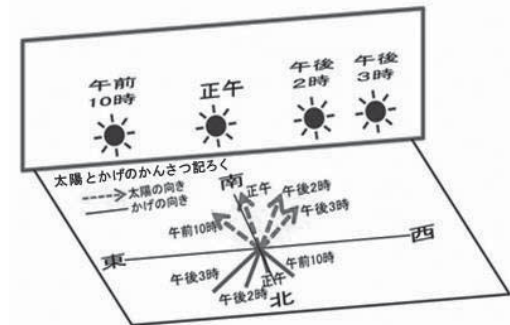
影は太陽と反対側にできたよ。

午前10時は西の方にでき、その後、北の方へ動いていったよ。午後2時は東の方にできたよ。

午前は影の長さがだんだん短くなり、午後になると影はだんだん長くなっていったよ。

影の「向き」や「長さ」の変化から、太陽がどのように動いたかを考えてみましょう。

○影の観察結果から「太陽の方位」、「太陽の高さ」について考え、「太陽」を立体模型に貼り視覚化する。グループで話し合った後、全体で検討する。



影は西から東の方に動いているね。太陽は影の反対にあるということは・・・。

影は西→北→東と動いていくから、太陽は反対に、東→南→西に動いているよ。

太陽の高さはどの時間でも同じでいいのかな？ 正午の太陽は高いところにあつたよ。

影は正午に比べて長くなったわ。太陽の高さと関係があるのかな。

モデル実験

懐中電灯の高さを変えて棒に当て、影の長さを調べる。

見直し

影は太陽が低いときは長くて、太陽が高いときは短いわ。

\*グループの話し合いでは、影の動きや長さをもとに太陽の位置を説明させる。

例「午後3時に東の方に長い影ができたから、太陽は西の低いところにあるよ。」

まとめ

太陽は東から出て、南の高いところを通り、西にしずむ。太陽が動くと、影の向きや長さが変わる。

適用題

観察記録に書き忘れてある方位やかげを書きましょう。





中学校 第3学年  
「社会」「理科」「英語」

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 64.7%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

29年度の平均正答率は64.7%で、28年度に比べ0.4ポイント上がっているものの十分とはいえない。世界の地域構成や生活や歴史上の人物名についての基礎・基本を理解することについては良好であるが、資料から読み取った複数の情報を関連付け、地理的事象の働きや役割などを考察することや、歴史的事象の背景や影響などを説明することに関しては、依然として課題が見られ、指導の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

**【地理的分野】** (県平均正答率 70.2%) (学校正答率 %)

◇：世界の地形や宗教の分布について、基礎的な知識を理解すること [1(1)(3)]

設問1(1)A, (3)は、世界の地形や宗教の分布に関する基礎・基本を問う問題であり、概ね良好である。しかし、1(1)Bは、25年度の類似問題と比べ6.7ポイント下回っており、十分とはいえない。

| 設問番号  | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|---------------------|--------|-------|
| 1(1)A | 六大陸<br>(北アメリカ大陸)    | 91.3%  | %     |
| 1(1)B | アフリカ大陸の地形<br>(ナイル川) | 64.4%  | %     |
| 1(3)  | 世界の宗教<br>(イスラム教)    | 81.4%  | %     |

引き続き、世界の諸地域に関する基礎・基本の定着を図り、地図帳や地球儀などを、意図的・計画的に活用する学習を充実させることが大切である。

▼：複数の情報を的確に読み取り、それらを関連付けて考察したことを、適切に表現すること [1(7), 4(5)②]

設問1(7)は、25年度の類似問題と比べて正答率が31.3ポイント上回っているものの不十分である。また、4(5)②も不十分である。いずれも資料から読み取った複数の情報を基に関連付けて考察し、適切に表現することが課題として挙げられる。

| 設問番号  | 問題の内容              | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|--------------------|--------|-------|
| 1(7)  | キューバの経済<br>(砂糖)    | 57.0%  | %     |
| 4(5)② | 日本の漁業<br>(排他的経済水域) | 40.8%  | %     |

(県) H25：事例1

(県) H25：1(2)⑥

その要因として、個々の資料からの情報の読み取りはできるが、情報と情報を結び付けて考える学習が十分でないことが考えられる。また、ペアやグループ学習では学習課題を解決できるものの、個人に戻り、考察したことを適切に表現する学習が不足していると考えられる。指導に当たっては、次のような学習を充実させる必要がある。

- ・資料から読み取った情報を、「読み取った事実」と「事実から考えたこと」に分けたことを基に、自分の考えを適切に表現する学習を充実させること
- ・学習課題に対するまとめや本時の振り返りを、自分の言葉で適切に表現する学習を充実させること

▼：漁業従事者数の変遷と漁獲量の資料を関連付けて学習課題として表現すること [4(6)]

設問4(6)については、p.36参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させる必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容        | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------|--------|-------|
| 4(6) | 日本の漁業 (学習課題) | 44.3%  | %     |

- ・資料から読み取った複数の情報を比較・関連付けて、気付いたことや疑問に思ったことなどについて話し合い、学習課題を設定する学習を充実させること
- ・学習課題に対して、既習事項や生活経験等を基に予想を立て、見通しもたせる学習を充実させること



**【歴史的分野】**

(県平均正答率 59.5%) (学校正答率 %)

○：基礎・基本となる歴史的事象について、資料や既習の知識を基に、適切に判断すること  
〔2(4)①, 3(1), 5(3)〕

設問 2(4)①, 3(1), 5(3)は、基礎・基本となる歴史的事象について問う問題であるが、いずれも正答率は 80% を超え、概ね良好である。

| 設問番号  | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|---------------------|--------|-------|
| 2(4)① | 歴史上の事象<br>(摂関政治)    | 86.3%  | %     |
| 3(1)  | 歴史上の事象<br>(土一揆)     | 85.4%  | %     |
| 5(3)  | 歴史上の事象<br>(江戸時代の農具) | 86.1%  | %     |

▼：日本に影響を与えた中国の王朝を、その変遷について考察し、適切に判断すること 〔2(5)〕

設問 2(5)は、26 年度の類似問題と比べ 42.5 ポイント下回っており、不十分である。古代の日本に影響を与えた中国の王朝名とその

| 設問番号 | 問題の内容        | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------|--------|-------|
| 2(5) | 時代の流れ(中国の王朝) | 31.9%  | %     |

(県) H26 : 2(3)

変遷を考察し、判断力を問う問題であるが、広い視野に立って歴史的事象や、その背景を捉えることに関しては依然として課題が見られる。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・時代の区分やその移り変わりに気付かせるために、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることについて調べたり考えたりする学習を充実させること

▼：資料や既習の知識を基に、判断したことや考察したことを、適切に表現すること  
〔2(4)②, 3(4)Y, 5(4)②〕

設問 2(4)②, 3(4)Y, 5(4)②は、それぞれ不十分である。2(4)②及び 3(4)Y は、資料から読み取った情報を基に、既習の知識と関連付けて、適切に表現することを問う問題であるが、歴史的事象に関する基礎・基本の定着が不十分なため、題意に応じて考察し適切に表現ができていない誤答が見られた。基礎・基本の定着を一層図るとともに、適切に表現する指導の工夫が必要である。

| 設問番号  | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|---------------------|--------|-------|
| 2(4)② | 歴史上の事象<br>(仮名文字)    | 54.5%  | %     |
| 3(4)Y | 太閤検地<br>(目的)        | 22.2%  | %     |
| 5(4)② | 江戸時代の産業<br>(工場制手工業) | 47.1%  | %     |

(県) H26・27・28 : 事例 2

(県) H27 : 3(5) 5(5) H28 : 3(4) 5(5)

設問 5(4)②については、p.38 参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・資料から読み取った複数の情報を比較・関連付けし考察させ、歴史的事象の背景や影響等を一人一人に説明させる学習を充実させること
- ・資料から、情報を読み取る段階とそれを基に解釈する段階に分けて考察する指導を工夫すること

**指導改善のポイント**

- 社会的事象から見いだした学習課題を、解決に向けて見通しを立て、資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察する力を育成すること (→ 事例 1)
- 資料から読み取った情報を基に思考・判断したことを、既習の知識と関連付け、適切に表現する力を育成すること (→ 事例 2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

社会的現象から見いだした学習課題を、解決に向けて見通しを立て、資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察する力を育成すること

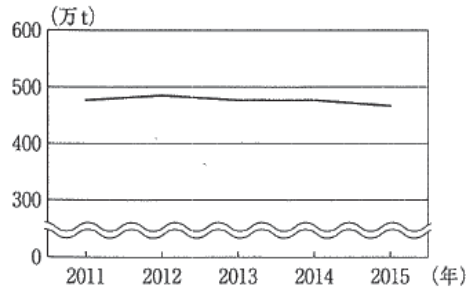
① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野 | 出題のねらい  | 評価の観点                      |
|------|-------|---|----------------------------|
| 4(6) | 地理的分野 | 日本の水産業の特色や課題について、複数の資料を基に考察したことを、適切に表現することができる。 | ・社会的な思考・判断・表現<br>・資料活用 の技能 |

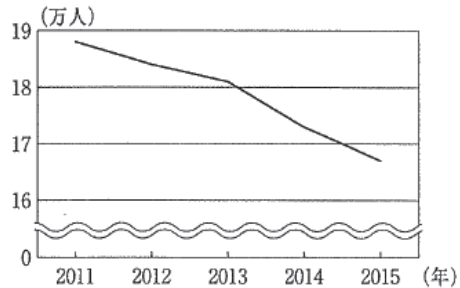
(6) 花子は、資料4と資料5のグラフから課題(学習課題)をつくり、ノートにまとめました。

資料4と資料5をもとに、「なぜ」から始まる課題をつくり  に書きなさい。

[資料4] 日本の漁獲量の変化



[資料5] 日本の漁業従事者数の変化



(資料4, 資料5は農林水産省資料より作成)

[花子のノート]

○課題 なぜ、    
 ○予想 魚をとるための高性能な機械を使う漁船が多くなったから。

| 正答例  | 誤答例                                       |
|--|---|
| ・ (なぜ, )<br>日本の漁業従事者数が減少しているのに、漁獲量はあまり変化していないのだろう。 | ・ (なぜ, )<br>漁獲量はあまり変わらないのに、漁業従事者が減っているのか。 |
| 正答率(準正答率)<br>44.3% (2.4%)                          | 誤答率<br>48.0%                              |
|  | 無解答率<br>7.8%                              |

② 指導改善に向けて

この設問は、漁業従事者数の変遷と漁獲量に関する資料から読み取った情報を関連付け、学習課題として表現することを問う問題である。正答率は44.3%であり不十分である。各資料とも比較的容易に読み取れ、且つ問題文中に「予想」として解答への見通しを立てるヒントがあるにも関わらず、誤答率が正答率を上回る結果となった。資料の読み取りを丁寧に行う授業が増えている一方、資料から読み取った複数の情報を関連付けて考察する学習活動に、依然として課題が見られる。

指導に当たっては、日常の授業において、授業者からの学習課題の提示ばかりではなく、生徒が気付いたことや疑問に思ったことを話し合ったことから、単元や本時の学習課題となって授業が展開されることが望まれる。そのためには、ICTの効果的活用や既習を生かすこと、生活経験を想起させるなど、生徒の気付きや疑問を引き出す資料提示の工夫が大切である。

③ 改善事例 第2学年「北海道地方」

1 指導のねらい

複数の資料を関連付けて学習課題とし、解決に向けて見通しを立て、資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察する力を育成する。

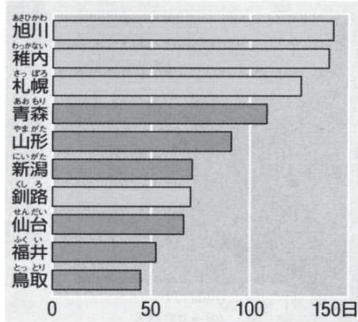
2 具体例 (注) 学習課題を生徒とつくる過程を丁寧にした事例である。

①の時間配分は10分程度

① 複数の資料の読み取りから、生徒が学習課題を設定する



「各地の年間降雪日数」の資料をペアで読み取りましょう。



各地の年間降雪日数 (理科年表)



年間降雪日数の上位3つは、すべて北海道の都市だわ。太平洋側の釧路も7位に入っているわね。



上位3位の都市は、120日を超えているよ。つまり、一年間の約3分の1は、雪で覆われていることになるね。



北海道地方の気候は、冬が長く梅雨がない冷帯だと学習したわ。夏には濃霧が発生するのよね。



そうだね、確かに東北地方や北陸地方に比べて降雪日数は多いね。では、下の資料も見てください。2つの資料を関連させると、何か疑問が出てこないかな？



都道府県別農業産出額 (農林水産統計速報)



北海道地方は、広大な面積なので農業がさかんだね。



茨城県や千葉県の2倍以上の農業産出額だわ。



あれ？北海道地方は、自然環境が厳しかったよね。



年間降雪量が多くて、冬が長いのに農業がとてもさかんなのは不思議だわ。



とても良いところに気付いたね。では、今日の学習課題を設定しましょう。



【学習課題】  
 <<なぜ、自然環境が厳しい北海道地方で農業がさかんのか>> にしよう！

② 既習の知識や生活経験を基に課題解決に向け、個人で予想する

③ 予想から学習課題に対して、ペアやグループ活動、全体交流などで多面的・多角的に考察する

④ 本時の学習課題に対するまとめを、自分の言葉で表現する

- ・ キーワードを使って記述させる (生徒に話し合わせて設定することも考えられる)
- ・ 文頭や文末等を示して記述させる **等、表現させる指導の工夫が必要**

【まとめ】 広大な土地に大型農業機械を使用したり、厳しい自然環境を克服するため、農産物の品種を改良したりすることで、北海道地方の農業は畑作や酪農を中心にさかんになった。

イ 事例2

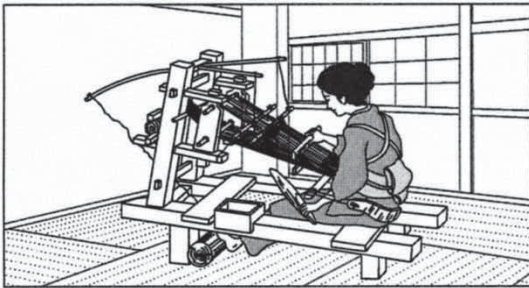
資料から読み取った情報を基に思考・判断したことを、既習の知識と関連付け、適切に表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

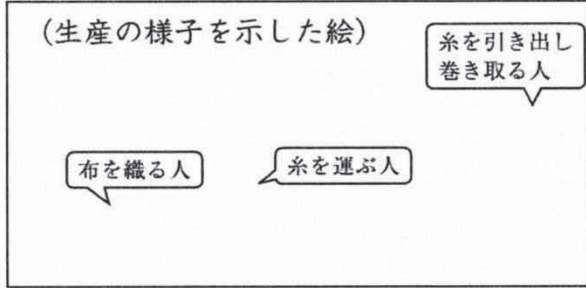
| 設問番号  | 領域・分野 | 出題のねらい   | 評価の観点   |
|-------|-------|--|---------|
| 5(4)② | 歴史的分野 | 江戸時代の生産のしくみの発達について、複数の資料から読み取ったことを基に考察したことを、適切に表現することができる。 | 資料活用の技能 |

(4) Ⅱについて、下の資料1と資料2は、農村で見られるようになった織物業における生産の様子を示した絵である。あとの①、②の問いに答えなさい。

[資料1]



[資料2]



② 資料1と資料2では、資料2の方が新しい生産のしくみであると判断できる。そのように判断できる理由を、資料1と資料2をもとに、働く場所と働き方の点から書きなさい。

| 正答例   |   | 誤答例   |  |
|---|---|-------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料2は)人々が工場に集まり分業体制で生産しているから。</li> <li>・(資料2は)人々が作業所に集まり、役割分担をして働いているから。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料2は)人々が広い場所に集まっているから。</li> <li>・資料1は問屋制家内工業だが、資料2は工場制手工業だから。</li> </ul> |       |  |
| 正答率(準正答率)   | 誤答率   | 無解答率  |  |
| 47.1%(18.5%)  | 41.5%   | 11.5% |  |

② 指導改善に向けて

この設問は、19世紀の江戸時代に日本で広がった、工場制手工業について、[資料1]の問屋制家内工業の絵と比較しながら、[資料2]の大商人や地主が農村に工場を建設し、人々にとって分業体制で製品を作るといった特徴を読み取ることをねらったものである。誤答の多くは、働く場所についてのみしか書かれておらず、働き方である分業体制や役割分担にまで触れられていなかった。これらは、「問屋制家内工業」「工場制手工業」に関する基礎・基本の定着が弱いことで十分な表現につながらなかったことや、資料から正確に情報を読み取り、既習の知識を基に考察・判断し、適切に表現することの学習活動が不十分なためだと考えられる。

指導に当たっては、資料から読み取った情報と歴史的な事象を関連付けて考察させ、その考えを正確に理解させるようにすることが必要となる。その際、資料から読み取ったことと、その情報から考えることを順序づけて話し合わせることも大事である。また、補助発問や追加資料の工夫をするとともに、場面に応じてペアやグループで他者に説明させたり話し合わせたりした後、考えを再構築し全体で交流させることも重要である。



③ 改善事例 第1～2学年「幕藩体制の成立」

1 指導のねらい

資料から読み取った情報を基に思考・判断したことを、既習の知識と関連付け、適切に表現する力を育成する。

2 具体例 **学習課題** 〈江戸幕府はどのように全国を支配したのだろうか？〉

① 資料の読み取りから歴史的事象を正確に捉える学習



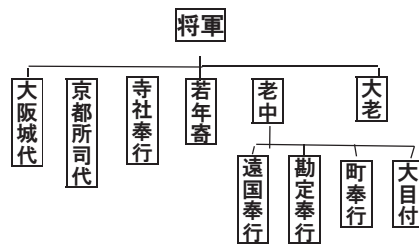
幕府が出した法令や定めた諸制度を、資料から読み取りましょう。

【資料1】武家諸法度の制定(1615年)

- 一、武士は文武と弓馬の道にもっぱら心がけること。
- 一、諸国の城は、補修するといっても必ず届け出ること。まして城の新築は絶対にしてはならない。
- 一、幕府の許可なく結婚してはいけない。
- 一、大名は、領地と江戸と交代で住むこと。毎年4月中に参勤すること。

※抜粋

【資料2】江戸幕府のしくみ



【資料3】大名の種類とその配置



諸大名を様々な面で統制しているね。参勤交代は小学校で学習したよ。



京都や大阪にも役所を設けているね。どんな役割を果たしていたのか調べてみよう。大名は種類毎に分けられていて、江戸から遠方は「外様大名」が多いことが分かるわ。

② 追加資料を用いて、既習を生かしながら、歴史的事象の意味や背景について話し合う学習

【追加資料】

〈御成敗式目 条文〉  
 〈鎌倉・室町幕府の政治の仕組み図〉



鎌倉幕府や室町幕府と比べて異なる点は何だろう？



御成敗式目は、御家人の権利義務や土地相続の規定が多く、武家諸法度は大名統制が中心だと分かるね。

幕府の直轄地は、今までの幕府にはなかったよ。



江戸幕府は奉行などの役職も多く、細かい所まで支配が感じられるわ。



当時の大名たちは、これらの法令や政策をどのように受け止めていたのか考えてみよう。



参勤交代の費用は莫大で、大名の大きな負担となっているね。命令に違反すると領地が没収されるなど、幕府に抵抗することができなかったようだね。

大名の配置も考えられているわ。外様大名らは江戸から遠方なため、反乱できなかったわね。



③ ①②の学習を活用して、学習課題について必要な情報を整理して、自分の言葉で表現する学習



話し合ったことを基に、江戸幕府はどのように全国を支配したか、自分の言葉でまとめよう。



鎌倉・室町よりも、江戸幕府は政治の仕組みや法令を整え、幕府の支配権を強固にしているね。それが約260年続く幕藩体制の基礎を築いたんだね。

参勤交代で諸大名の経済力を抑え、大名配置を幕府が決めることは、それまでの幕府にはなかったわ。幕府に抵抗できない仕組みを工夫して、安定した武家政権を目指したのね。



【まとめ】江戸幕府は法令や諸制度を細部にまで整備し、実行することで支配力を強めた。大名たちが抵抗できない、これまで以上に強固で安定した武家政権を築き上げることを目指した。

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 49.2%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

29年度の平均正答率は49.2%で、28年度に比べ2.1ポイント上がったものの不十分である。領域別では、化学的領域の平均正答率が38.3%と低い。化学反応を示すモデルや化学反応式について答える問題や、分析・解釈に関わる活用力を問う問題で課題が見られることなどが要因である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

**【第1分野 物理的領域】** (県平均正答率 52.5%) (学校正答率 %)

▼：圧力の計算ができること [6(3)]

力の大きさと力の加わる面積から、圧力を計算することは不十分である。質量と重さの関係の理解や、力や圧力の単位を正確に記述する事に課題が見られる。今後は、次のような指導の充実が求められる。

| 設問番号 | 問題の内容 | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-------|--------|-------|
| 6(3) | 圧力の計算 | 14.2%  | %     |

(県) H21：1(1) H22：3(2) H25：1(1)②

- ・身近にある事象を通して圧力の変化を体感させ、力・面積・圧力の三者の関係への理解を深めさせる指導
- ・質量と重さの関係を整理させ、圧力の単位を正確に記述させる指導

▼：実験結果の考察を基に情報を整理し、電気抵抗を求めること [8(4)]

設問8(4)については、p.44参照。複数の実験結果を分析・解釈し、必要な情報を取捨選択して考察する等の活動が十分に行われていないことが考えられる。

| 設問番号 | 問題の内容                          | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------------------|--------|-------|
| 8(4) | 実験結果の考察を基にした電気抵抗の計算<br>【分析・解釈】 | 5.1%   | %     |

(全) H24：3(3) H27：6(1) (県) H28：3(4)

**【第1分野 化学的領域】** (県平均正答率 38.3%) (学校正答率 %)

▽：物質の種類と沸点について理解すること [4(2)]

設問4(2)については、十分とはいえない。純粋な液体の沸点は、質量や体積によらず決まった値をもつことについて、定着が弱いと考えられる。今後は、次のようなことに留意する必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------|--------|-------|
| 4(2) | 物質の種類と沸点 | 61.7%  | %     |

- ・純粋な物質の沸点や融点は、物質を知る手がかりとなることについての理解を深めさせること
- ・物質のいろいろな性質を利用し、物質の種類を同定する活動を充実させること

▼：実験結果から物質と酸素の結びつきやすさを考えること [2(4)]

設問2(4)については、不十分である。酸化や還元に関わって、1種類の物質と酸素との結びつきに関しての実験結果の考察は行われているが、数種類の物質と酸素との結びつきについての吟味は、不足していると考えられる。今後は、次のような活動を意図的に設定し、充実させる必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容                | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------------------|--------|-------|
| 2(4) | 物質と酸素の結びつきやすさ【分析・解釈】 | 26.7%  | %     |

(県) H28：6(3)

- ・還元反応について、粒子モデルや化学反応式で表現する活動
- ・複数の実験結果を分析し、情報を整理して問題解決を図る活動

**【第2分野 生物学的領域】**

(県平均正答率 56.7%) (学校正答率

%)

**▽：実験の改善方法を考え、結果を予測すること [5(3)]**

各部分からの蒸散量の違いを正確に求めるため、複数の条件から適切な組合せを設定することは十分とはいえない。日常的に実験の改善方法をグループ活動で考えさせるなど、対話的な学習を授業に設定することが必要である。今後は、次のような指導の充実が求められる。

| 設問番号 | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------------|--------|-------|
| 5(2) | 気孔                  | 87.3%  | %     |
| 5(3) | 蒸散量を調べる実験の改善【検討・改善】 | 66.1%  | %     |

(県) H28 : 8(3)

・実験方法について複数で検討させ、自分の考えを改善させたり、再構築させたりすること

**▽：対照実験の理由を理解すること [7(3)]**

対照実験の意味を問う経年的に出題されている問題である。徐々に改善が図られてきているが、正答率については、十分とはいえない。「何によって」「どのような結果になるのか」が明確になっていないことが考えられる。また、「どのような条件を設定することで確かめられるのか」を把握させていないことも考えられる。今後は、次のような指導の充実が求められる。

| 設問番号 | 問題の内容       | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-------------|--------|-------|
| 7(3) | 対照実験の理由【構想】 | 62.0%  | %     |

(県) H22 : 事例1

(県) H22 : 5(2) H26 : 1(4)

・対照実験の目的を明確に把握させ、条件設定の違いによる結果を十分に予想させること

**【第2分野 地学的領域】**

(県平均正答率 51.3%) (学校正答率

%)

**▼：仮説及び仮説を検証するための実験方法を考えること [1(3)]**

設問1(3)については、p.42 参照。「変える条件」と「変えない条件」を明確にする必要があったが、その条件が満たされていない誤答が多く見られた。

| 設問番号 | 問題の内容                                | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------------------------|--------|-------|
| 1(3) | 山の形とマグマの性質の関係の仮説及び仮説を検証するための実験方法【構想】 | 35.7%  | %     |

(全) H27 : 1(5) 3(2) 6(2)

**▼：陸風・海風が吹くまでの気象現象について理解すること [3(4)]**

身のまわりの気象現象を順序立てし、陸風・海風の吹く理由を説明することは不十分である。既習事項である空気の性質や上昇気流・下降気流と気圧の関係などの理解が定着しておらず、それらと関連付けて風の吹く理由を説明することができていないと考えられる。今後は、次のような活動を充実させる必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容                       | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-----------------------------|--------|-------|
| 3(4) | 陸風・海風が吹くまでの気象現象の並び替え【分析・解釈】 | 43.3%  | %     |

・低気圧と高気圧における空気の動きと気圧の関係など、様々な気象現象の要因を、分析して解釈する活動

**指導改善のポイント**

課題解決のための観察・実験における条件を考えたり、計画したりする活動を充実すること

(→ 事例1)

観察・実験の結果を分析して解釈する活動を重視すること

(→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 1

ア 事例1

課題解決のための観察・実験における条件を考えたり、計画したりする活動を充実すること

① 問題と解答の状況

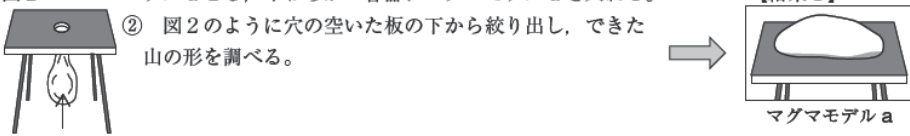
| 設問番号 | 領域・分野         | 出題のねらい  | 評価の観点                         |
|------|---------------|---|-------------------------------|
| 1(3) | 第2分野<br>地学的領域 | 火山の形とマグマのねばりけの関係について、仮説を立てて検証するための実験を考えることができる。 | ・自然事象への関心・意欲・態度<br>・科学的な思考・表現 |

孝太さんは、マグマの性質と火山の形の違いについて、仮説を立てて確かめ、レポートにまとめました。

孝太さんの実験レポート

【仮説】「火山の形が違うのは、マグマの（ X ）が違うからである。」  
 〈小麦粉に水を混ぜたものをマグマのモデルとして使い、できた山の形を調べる〉

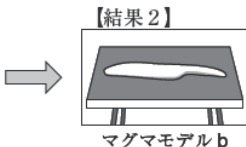
【方法1】 ① 同じ質量の小麦粉と水を混ぜ合わせたものをマグマモデルaとし、やわらかい容器にマグマモデルaを入れる。  
 図2 ② 図2のように穴の空いた板の下から絞り出し、できた山の形を調べる。



【結果1】  
マグマモデルa

マグマモデルaでできた山の形を確認して、【方法2】を行う。

【方法2】 ③ マグマモデルaに対して、（ Y ）して、マグマモデルbをつくり、別のやわらかい容器に入れる。  
 ④ マグマモデルbを使って②と同様の操作をし、できた山の形を調べる。



【結果2】  
マグマモデルb

【考察】「火山の形が違うのは、マグマの（ X ）が違うからである。」という仮説が確かめられた。

(3) 孝太さんは、マグマの性質と火山の形について、どのような仮説を立てたのか、（ X ）にあてはまる言葉を書きなさい。また、【方法2】③の（ Y ）には、仮説を確かめるために孝太さんが行った実験操作が書かれています。（ Y ）にあてはまる言葉を、【方法1】①のマグマモデルaに対して、変えないものと変えるものに着目して書きなさい。

| 正答例   | 誤答例                                     |      |
|---|---|------|
| X…ねばりけ  | X…性質 ， 量 ， かたさ                          |      |
| Y…<br>・小麦粉の質量を変えずに、水の質量を増や（して）<br>・水の質量を変えずに、小麦粉の質量を減ら（して）<br>・全体の質量は変えずに、水の割合を増や（して） | Y…<br>・ねばりけを弱くし、平たく（して）<br>・細長く、うすく（して） |      |
| 正答率（準正答率）   | 誤答率                                     | 無解答率 |
| 21.5%（14.2%）  | 59.6%                                   | 4.7% |

② 指導改善に向けて

この設問は、仮説を確かめるための実験方法を考察する問題である。「火山の形が違うのは、マグマのねばりけが違うからである」という仮説を立てることはできているが、その仮説を検証するための適切な実験方法を設定することができていない。

指導に当たっては、生徒自身が課題を設定し、自分が考えた変化する要因を基に仮説を立てることが大切である。その後、小学校で培った「条件制御」の能力を活用して、仮説を検証するための実験計画を立てる活動を、授業の中に取り入れていく必要がある。



③ 改善事例 第1学年「音の世界」

1 指導のねらい

課題解決のための観察・実験における条件を考えたり，計画したりする力を育てる。

2 具体例

【1】 生徒自身が課題を設定する。



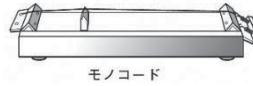
ギターはどうやって音の高さを変えているか知っていますか？

指で弦を押さえた場所によって音の高さは変わります。



演示実験

モノコードを弾いて音を聴かせる。手元を隠して音の高低を変えてみる。



モノコード

音の高さが変わったね。弦が1本しかないのになぜだろう？音の高低は，何と関係があるのだろう？



課題 く 弦を弾いたとき，音の高低は何に関係しているのだろうか？ 〉

【2】 原因として考えられる複数の条件(要因)を挙げて，仮説を設定する。

音の高さを変えるために，弦で変化させられるものは…。弦の長さ，弦の太さ，弦をどのくらい強く張ってあるか…。あとは何が考えられるかしら？



仮説(例)

①弦の太さが細いほど，音が高いのではないか。

②弦の長さが短いほど，音が高いのではないか。

③弦が強く張ってあるほど，音が高いのではないか。

④弦を弾く強さが強いほど，音が高いのではないか。

【3】 変える条件と変えない条件に着目して，実験を計画する。



わたしは，太い弦と細い弦を弾いて音の高さを比べてみることにするわ。

ぼくは，太くて長い弦と細くて短い弦を準備して実験してみようと思う。



どの仮説を検証するための実験計画なのかな？変える条件だけに着目するのではなく，変えない条件にも着目することが大切ですよ。



そうか。音の高さと弦の太さの関係を調べたいのだから…。太い弦と細い弦を使うけれど，弦の長さ，弦を張る強さ，弦を弾く強さは変えてはいけないのね。

2つの条件を変えると，どちらの条件で音の高さが変わっているかが分からないのか。変える条件はひとつだけにしないといけないんだな。



【4】 仮説を整理する。



表を使って整理すると分かりやすいね。



「変える条件」と「変えない条件」をはっきりさせると実験しやすいね。

|        | 仮説①             | 仮説②             | 仮説③               | 仮説④               |
|--------|-----------------|-----------------|-------------------|-------------------|
| 内容     | 弦の太さが細いほど，音が高い。 | 弦の長さが短いほど，音が高い。 | 弦が強く張ってあるほど，音が高い。 | 弦を弾く強さが強いほど，音が高い。 |
| 変える条件  | 弦の太さ            | 弦の長さ            | 弦の張り方             | 弦の弾き方             |
| 変えない条件 | 弦の長さ            | 弦の太さ            | 弦の太さ              | 弦の太さ              |
|        | 弦の張り方           | 弦の張り方           | 弦の長さ              | 弦の長さ              |
|        | 弦の弾き方           | 弦の弾き方           | 弦の弾き方             | 弦の張り方             |

自然の事物・現象の中に問題を見いだして課題を設定し，予想や仮説を立てたり，実験の条件を考えたりすることが大切です。



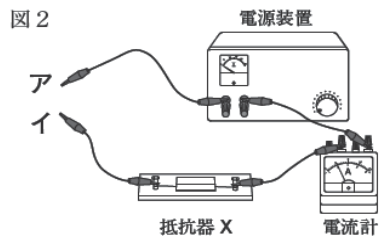
イ 事例2

観察・実験の結果を分析して解釈する活動を重視すること

① 問題と解答の状況

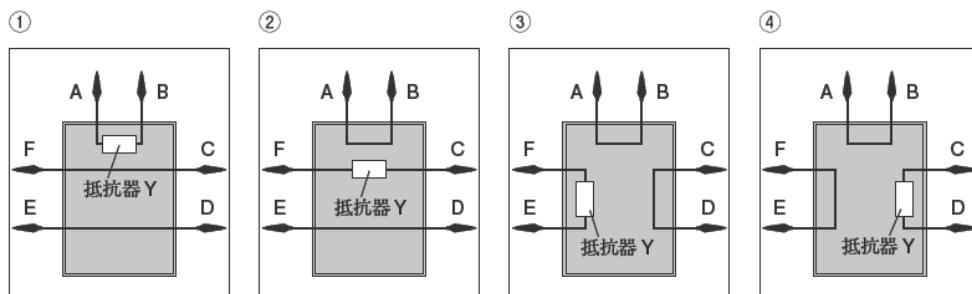
| 設問番号 | 領域・分野         | 出題のねらい                   | 評価の観点    |
|------|---------------|--------------------------|----------|
| 8(4) | 第1分野<br>物理的領域 | 実験結果から、電気抵抗の値を求めることができる。 | 観察・実験の技能 |

8 彰さんたちのクラスでは、図1のような配線が見えない箱の中身を調べるために、図2のような装置をつくり実験することにしました。あとの問いに答えなさい。



彰さんたちは、先生から、図1の箱の配線は、下の4枚のカードのどれか1つと同じである伝えられました

【4枚のカード】



- (3) 表から、図1の箱の配線はどれだと考えられるか、【4枚のカード】の①～④から1つ選び、その番号を書きなさい。
- (4) 抵抗器Yの電気抵抗の値は何Ωになるか、表をもとに求めなさい。

|      |       |       |
|------|-------|-------|
| 正答例  | 誤答例   |       |
| 5(Ω) | 15(Ω) |       |
| 正答率  | 誤答率   | 無解答率  |
| 5.1% | 70.7% | 24.2% |

② 指導改善に向けて

本設問の正答率は、5.1%と最も低く、無回答率も24.2%と高い。電流計の測定値から、CD間に抵抗器Yがあることは判断できたものの、抵抗器Xも用いた直列回路であることを見抜けていない。誤答には15Ωという数値が多く見られ、抵抗器Xの抵抗の大きさが考慮されていないことが考えられる。得られた情報や考察した事柄を整理し、それを回路図等に置き直して再思考する点に課題が見られる。

指導に当たっては、与えられた情報やデータを取捨選択する力や、知識を基にそれらをつなげていく力を身に付けさせることが必要である。その際、考えに至る根拠を説明する場面の設定も求められる。オームの法則に関わる計算については、回路の成り立ちを理解し、回路図中にデータを適切に示すことを習慣付ける必要がある。直列・並列回路における電流と電圧の規則性をしっかりと定着させること、どの数値を用いて計算するのか情報を精査する力を高めることが、確かな技能を身に付けさせるために重要である。

### ③ 改善事例 第2学年「電流・電圧と抵抗」

#### 1 指導のねらい

回路の成り立ちを理解し、電流と電圧の大きさを系統立てて考え、見いだしたり説明したりする力を育てる。

#### 2 具体例

##### 課題 く 回路の中で抵抗の大きさを知るためには何を調べたらよいだろうか？

##### (1) 前時までの学習の流れ

- ・オームの法則に関わる計算について公式と簡単な計算手順をおさえた。
- ・直列回路と並列回路における回路全体の抵抗の大きさの求め方をおさえた。

##### (2) 新たな課題の設定



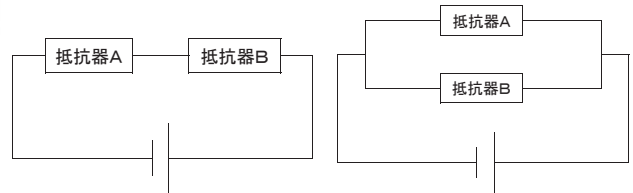
先生、何か考え事ですか？

なるほど。生徒が苦手とするところにポイントを置き、計算演習の視点を変えてみるのもよいかもかもしれませんよ。

はい。オームの法則の計算をするとき、どの部分の何のデータが必要なのか見いだせない生徒がいます。どうやって指導したらよいか考えていたのです。



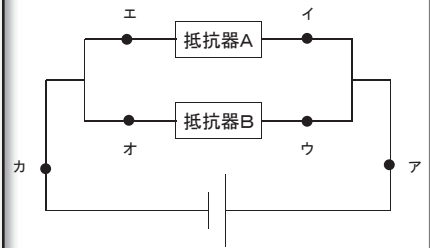
右のような回路で「抵抗器A・Bの抵抗の大きさは、何を調べたら分かるでしょう？」と発問したら、どんな反応が予想されますか？



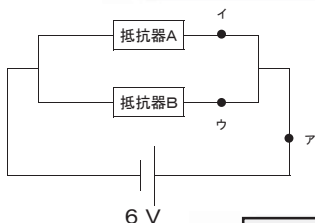
そうですね。「電流と電圧の大きさを調べたらいい」と答える生徒がほとんどだと思います。ただし、「どの場所で調べる？」と問い返したら、いろいろな考えが出てきそうです。



例えば、電流を測定する地点をいくつか指定すると、測定のパターンも多く出てきそうですね。その際、なぜその地点で調べるのか説明させることで、それぞれの回路における電流や電圧の規則性についても理解を深められそうですね。「抵抗器Aと抵抗器Bが同じ大きさだとしたらどこで調べる？」と追加質問すると、さらに電流・電圧と抵抗について考えることもできそうですね。



下のような回路で、このように発問しても面白いかもしれません。「抵抗の大きさを求めるために、最低何回電流と電圧を計ればよいか？」



なるほど。さらに条件を設定するんですね。並列回路の理解があれば、電流は2回計るという意見が出てきそうです。イ、ウの地点を示すことが多いでしょうか。でも、アともう一か所を計り、引き算することもできますね。電圧は0回ですが、2回計るという考えも出てくるでしょうか…



そのように、知識を基にして情報をつなげていくことが大切です。他の単元でも、小学校で学習した割合の知識を基に「質量パーセント濃度はどんなことが分かれば計算できるか？」と視点を変えて発問したらどんな反応があるでしょう？また、「密度を知るために、どんな方法を何で測定して求めるか？」「浮力(圧力)は何を測定し、どのように求めるか？」とすると、情報をつなげながら、自分の考えに根拠をもって取り組めそうですね。

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 59.9%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

29年度の平均正答率は59.9%で、28年度より3.7ポイント上がっている。全体の語彙数は昨年度と同程度であるが、読むことと書くことの領域において正答率が上がったことが要因である。しかし、英文を正しい語順で書く基礎的な力やまとまりのある内容の英文を適切に書く力については、依然、課題が見られることから、指導の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

**【聞くこと】** (県平均正答率 75.6%) (学校正答率 %)

▽：話しかけの内容に適切に応じること [3]

設問3のNo.2, No.3ともに正答率は64.4%と十分とは言えない。No.2の許可を求める表現に対する応答では、Yes, I can. を選択した誤答が多く、対話の内容から状況を判断する力が不足していると考えられる。また、No.3では、疑問詞 When に対して人物を選択した誤答が多く、疑問詞の聞き取りや意味の理解が十分でないことが考えられる。

| 設問番号   | 問題の内容                                      | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|--------|--|--------|-------|
| 3 No.2 | 話しかけ (Can I try it?) に応じること                | 64.4%  | %     |
| 3 No.3 | 話しかけ (When did you start to study?) に応じること | 64.4%  | %     |

また、No.3では、疑問詞 When に対して人物を選択した誤答が多く、疑問詞の聞き取りや意味の理解が十分でないことが考えられる。

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

- ・教師が授業を英語で行うことに努め、ふだんから生徒が英語に触れる機会を充実させること
- ・既習表現等を用いて教師と生徒、または生徒同士でやりとりをする場面を増やし、表現と意味の一致を図りながら、適切に応答する力を高めること

**【読むこと】** (県平均正答率 58.9%) (学校正答率 %)

▽：言語の使用場面や働き、語句の役割に気を付けながら、短い英文を正しく理解すること [5]

設問5の(2)(3)は、28年度とほぼ同問である。正答率は上がったが、(2)では Does, (3)では were を選択した誤答が多かった。(4)(6)については、対話の流れを把握できていないための誤答が多く、依然として課題が見られる。

| 設問番号 | 問題の内容                    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------------|--------|-------|
| 5(2) | be 動詞を用いた英文の理解           | 48.9%  | %     |
| 5(3) | 一般動詞を用いた文の内容に対する応答の仕方の理解 | 59.8%  | %     |
| 5(4) | 言語の使用場面（電話）に応じた英文の理解     | 69.7%  | %     |
| 5(6) | 言語の働き（相手の行動を促す）に応じた英文の理解 | 57.9%  | %     |

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

- ・言語の使用場面や働きを意識した導入や練習を行い、形・意味・用法を合わせて理解させること
- ・意味のある文脈の中で使い、使っては学ぶといった、理解や練習と実際の使用のサイクルを繰り返す中で、適切に対応できる力を付けさせていくこと

▼：まとまった量の英文を読んで、情報を整理しながら大切な部分、書き手（話し手）の意向などを適切に読み取ること [9]

設問9の全体の正答率は36.4%である。(2)では、ポイントとなるキーワードを捉えることができていないこと、(3)では、That's a problem. の That が示す内容の説明が十分でない誤答が多いことから、情報を整理しながら大切な

| 設問番号 | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------------|--------|-------|
| 9(1) | 情報を整理しながら状況の正確な読み取り | 65.6%  | %     |
| 9(2) | 書き手（話し手）の情報の読み取り    | 23.4%  | %     |
| 9(3) | 話の詳細な情報の読み取り        | 20.3%  | %     |

(県) H26：事例1 H28：事例2 (県) H23～H27：8 H28：9



部分、書き手（話し手）の意向などを適切に読み取ることは不十分である。短時間で全体の概要や大切な部分を適切に読み取る力を高めるためには、必要な情報を読み取る、概要・要点を捉えるなど、読む目的を明確にした活動に取り組ませることが大切である。指導に当たっては、次のような活動の工夫が考えられる。

- ・生徒に目的や状況などを明確に示し、自分が置かれた状況から判断して必要な情報を把握させる活動
- ・情報の関係を示す接続詞に注目させながら文章の流れを理解するためのキーワードを拾わせ、全体としての内容を数文の英文でまとめさせたりする活動
- ・出来事を時系列に整理させ、どんな内容を伝えようとしているかを絵や簡単な英語で表現させるなどの活動

**【書くこと】** (県平均正答率 48.9%) (学校正答率 %)

**▼：語順や語形に気を付けながら、場面や状況に応じて正しく書くこと [6]**

設問 6 については、p.48 参照。今後は、次のような指導を充実させる必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容                  | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|------------------------|--------|-------|
| 6(1) | 主語+動詞+目的語+目的語を用いた英文の語順 | 77.2%  | %     |
| 6(2) | 前置詞句の後置修飾を用いた英文の語順     | 67.2%  | %     |
| 6(3) | 動名詞を用いた英文の語順           | 67.8%  | %     |
| 6(4) | 不定詞の形容詞的用法を用いた英文の語順    | 43.2%  | %     |
| 6(5) | 従属節を含む英文の語順            | 62.0%  | %     |

(県) H23～H27：5 H28：6

- ・小学校での学びを生かし、小学校で慣れ親しんだ語句や表現などの学習内容を、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに配慮し、繰り返し活用させながら定着を図る指導を工夫すること
- ・指導する言語材料の系統性を意識し、基礎基本の定着から表現の幅を広げる指導を工夫すること

**▼：自分の考えや気持ちが伝わるよう、まとまりのある英文を書くこと [11]**

設問 11 については p.50 参照。今後も、引き続き改善を図るため、次のようなことに留意する必要がある。

| 年度 | 問題の内容 (テーマ)  | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|----|--------------|--------|-------|
| 28 | お勧めの季節 (夏・冬) | 58.9%  | %     |
| 29 | お勧めの場所 (県内)  | 48.1%  | %     |

(県) H26：事例 2

(県) H23～H27：10 H28：11

- ・全体として一貫性のある文章を書くことができるよう、「導入—本論—結論」や「主題—根拠や具体—主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識させた指導の充実を図ること
- ・目的や場面、状況等を明確にし、与えられた課題を解決するために、生徒自らが最もふさわしい表現形式を考え、適切に表現できるような必然性ある言語活動を行うこと
- ・自己表現で活用できる基本文を、ウォームアップなどの中で繰り返し使わせることを通して、定着を図ること

**指導改善のポイント**

- 小学校外国語活動と中学校外国語との系統を意識し、小学校で慣れ親しんだ表現を生かしながら、英語の基本的な語順や文法の定着を図ること (→ 事例 1)
- 伝える相手や目的を明確にして、自分の考えや気持ちなどをよりよく読み手に伝えるよう意識させながら、まとまった文章で表現する力を育成すること (→ 事例 2)



(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

小学校外国語活動と中学校外国語との系統を意識し、小学校で慣れ親しんだ表現を生かしながら、英語の基本的な語順や文法の定着を図ること

① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野 | 出題のねらい                                     | 評価の観点                         |
|------|-------|--|-------------------------------|
| 6    | 書くこと  | 語順や語形に気を付けながら、場面や状況に応じて、正しい語順で英文を書くことができる。 | ・外国語表現の能力<br>・言語や文化についての知識・理解 |

6 次の(1)～(5)の対話文が完成するように、それぞれ[ ]内の語句を正しく並べかえなさい。

- (1) A : I heard you went to Australia.  
B : Yes. It was fun.  
A : Will you [me / some pictures / show]?
- (2) A : Look at the [a cap / boy / with] over there. He's very tall.  
B : Oh, that's Takeshi. He's Keiko's brother.
- (3) A : What do you do when you are free?  
B : I like music. So I [listening / enjoy / CDs / to].
- (4) A : You have a big bag.  
B : Yes, I have a lot of [read / books / to / interesting].
- (5) A : It was sunny here in the morning.  
B : Really? It was [left my house / raining / I / when].

|     | 正答例   | 誤答例  |
|-----|---|--|
| (1) | Will you [ show me some pictures ]?               | (1)Will you [ show some pictures me ]?           |
| (2) | Look at the [ boy with a cap] over there.         | (2)Look at the [ a cap with boy ] over there.    |
| (3) | So I [ enjoy listening to CDs ].                  | (3)So I [ listening to enjoy CDs].               |
| (4) | I have a lot of [ interesting books to read ].    | (4)I have a lot of [ books to read interesting]. |
| (5) | It was [ raining when I left my house ].          | (5)It was [ when raining I left home ].          |
| 正答率 | (1) 77.2% (2) 67.2% (3) 67.8% (4) 43.2% (5) 62.0% |  |
| 誤答率 | (1) 21.8% (2) 31.5% (3) 30.8% (4) 54.9% (5) 35.4% |  |

② 指導改善に向けて

設問6は、全体の正答率は63.5%であり、十分とは言えない。目的語を2つ取る動詞の語順や不定詞などの基本の形は理解できていても、語彙数が増えると正しく並べかえられない誤答が多く、英文の理解が基本のパターンでとどまっていることが要因と考えられる。

今後の指導に向けて、特に重要となってくるのは、小学校での学びを生かしていくことである。聞くこと、話すことなどの音声を中心に慣れ親しんできた表現を文字で視覚化し、文構造として定着を図ることや、中学校では、基本表現から語彙を増やしながら表現の幅を広げる指導につなげていくことが必要である。

そのためには、小学校と中学校で学習する言語材料を整理し、小学校での学びを理解しながら、系統的に指導できるものを明確にすることが大切である。

また、定着を図るためには、生徒に言語活動の目的や言語の使用場面を意識させ、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して、繰り返し活用させる場面を設定することが大切である。

③ 改善事例 第1・2学年（学年段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

語順や語形に気を付けながら、英語の基本的な語順や文法の定着を図る。

2 具体例

[例1] 小学校外国語活動との活動のつながりの把握

【小学校外国語活動】（現行学習指導要領）

コミュニケーションに関する事項

・積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。

◇小学校第5学年 **音声中心の学習**

Hi, friends!1 Lesson 3 「How many?」

・数を言ったり聞いたりして数字をチェック

One. Two.

・How many dogs?（音声上での複数形への気付き）

One dog. Two dogs.

【中学校外国語科】書くこと（現行学習指導要領）

・語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと

◇中学校第1学年

New Horizon1Unit4 **How many+複数形+疑問文?**

Sunshine1program4

**Do** they have **two** dogs?  
**How many** dogs **do** they have?  
 They have two dogs.

◇小学校外国語活動と中学校外国語の系統を意識し、基本的な英文の型から表現の幅を広げる事例

指導のポイント



●Hi, friends!での学習内容の把握

- ・どのような表現があるか？
- ・どのような動詞や疑問詞が使用されているか？

●学習する言語材料を整理し、系統的に指導できるものを明確にする

指導のポイント



●小学校での学びを想起させながら、外国語活動で表現したことを文字で表すなど、活動をつなげる

●指導の際は、文構造により着目させるために、視覚的な支援を行うなどの工夫も必要

[例2] 基本表現の定着と表現の幅を広げる指導

◇中学校第1学年 New Horizon1

(例) Unit5

**What** is this?



(例) Unit7

**What time** is it?

**What season** is it?

**What language** do people in Brazil speak?

指導のポイント



●例えば、疑問詞 [What] の用法が変わったとき、再度文構造に着目させるなどして、理解の定着を図るようにする

◇中学校第2学年

(例) 言語材料：目的語を2つ取る動詞 give

i 書き換えによる同意表現

Give me some milk. = Give some milk **to** me.

ii 不定詞の形容詞的用法との関連付け

Give me something **to drink**.

iii 語彙を加えより詳しい表現

Give me something **cold to drink**.

指導のポイント



●基本的な語順の定着のためには、表現を学んでは意味のある文脈の中で使い、理解や練習と実際の使用を繰り返すことが大切



イ 事例2

伝える相手や目的を明確にして、自分の考えや気持ちなどをよりよく読み手に伝えるよう意識させながら、まとまった文章で表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野 | 出題のねらい   | 評価の観点   |
|------|-------|--|---|
| 11   | 書くこと  | 初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションへの関心・意欲・態度</li> <li>・外国語表現の能力</li> </ul> |

11 アメリカの友人から、石川県を訪れるならどこがよいかをメールでたずねられました。あなたなら石川県のどの場所を勧めますか。お勧めの場所名を【 】に1つ書き、それに続けて、あなたの考えを3文以上のまとまりのある英語の文章で書きなさい。ただし、I think 【 】 is the best place. は1文として数えません。

なお、必要があれば下の中の語句を使ってもかまいません。

|              |                 |                   |                              |
|--------------|-----------------|-------------------|------------------------------|
| see          | buy             | learn             | relax (リラックスする)              |
| garden (庭)   | castle (城)      | temple (寺)        |                              |
| shrine (神社)  | hot spring (温泉) |                   |                              |
| mountain     | beach (砂浜)      | rice fields (田んぼ) |                              |
| festival     | flower          | view (景色)         |                              |
| culture (文化) | seafood (シーフード) |                   |                              |
| famous       | old             | beautiful         | delicious (おいしい) fresh (新鮮な) |

| 正答例  | 誤答例  |       |
|--|--|-------|
| I think 【Noto】 is the best place.<br>Noto has delicious seafood. We can eat a lot.<br>There is a famous hot spring there, so we can relax any time. You should visit Noto. | I think 【Chirihama】 is the best place.<br>You can swim. You can drive. You can fish.<br>(同様の形式の繰り返し) |       |
| 正答率 (準正答率)   | 誤答率  | 無解答率  |
| 48.1% (42.3%)  | 39.1%  | 12.8% |

② 指導改善に向けて

設問11の正答率は、48.1%と不十分である。誤答としては、同様の形式の繰り返し、話題に一貫性がないものなど、これまでの傾向と同様である。また、お勧めの場所を友人に伝えるという相手意識が十分でない英文も多かった。

自分の考えや気持ちなどをまとまった文章で伝えることができるようにするには、単元のゴールを明確にした上で、伝える必然性のある課題を設定し、相手が求める内容について自分の考えや気持ちなどを適切に書くことができるように指導を充実させていく必要がある。

そのためには、第1学年から、文章構成を意識させながら、全体として一貫性のある文章を書くことができるようにしていくことが大切である。また、与えられた課題を解決するために、生徒自らが最もふさわしい表現形式を判断するような言語活動を行う必要がある。その際、より豊かな内容にするために、ペア・グループで生徒同士が話して伝え合う場面でアイデアを共有することや、話し合いで得た情報を整理することを通して、自分の文章を修正するなどの技能統合を図った活動も有効である。

### ③ 改善事例 第2学年（学年段階や学習状況に応じて）

#### 1 指導のねらい

伝える相手や目的を明確にして、自分の考えや気持ちなどをよりよく読み手に伝えるよう意識させながら、まとまった文章で表現する力を育成するための工夫を図る。

①課題設定の工夫 ②文章構成の意識 ③より適切な表現形式の判断 ④達成状況の把握

#### 2 具体例

若手の先生



今日は、授業で、生徒達に**自分の考えなどをまとまりのある文章で書かせる指導を行う際のポイント**を、いくつか教えてください。

まず、**課題設定の工夫**が大切だね。次の2つを比べてごらん。どう思う？



ベテランの先生

【課題】「わが町の紹介文を書きましょう。町内のどこを紹介するのか、そこはどのような場所なのか、訪れる人にどのようなことを伝えたいか、を内容に含めること。」

【課題】「1ヶ月後、このクラスにカナダからの留学生が来ることになりました。彼女にわが町のお勧めの場所を事前にメールで知らせてあげましょう。まず、勧めたい場所を各自1カ所ずつ選び、その場所の特徴やお勧めのポイントなどについて書こう。」



右は、**伝える相手や目的、そして書いて伝える必要性**がはっきりしています。



そうだね。「**コミュニケーションを行う目的や場面、状況**」などを明確に設定することで、生徒も**実際のコミュニケーション**を行っている**実感**がもてるよ。



ところで、「**まとまりのある文章を書く**」とは、どういうことかな？



「**文と文の順序や相互の関連に気を付けて、全体として一貫性のある文章を書くこと**」ですね。

「**導入—本論—結論**」や「**主題—根拠や具体—主題の言い換えや要約**」など、**文章構成を意識しながら全体として一貫性のある文章を書くことができるようにすることが重要**だね。1年生でも、次のような英文を提示して、どちらが相手に分かりやすく伝わるか考えさせることもできるね。

I'm Sato Jun.  
I like shogi very much.  
I have a little dog.  
I'm twelve years old.  
I'm from Midori-cho.  
I'm in the shogi club.

My name is Ito Emi.  
I'm twelve years old.  
I live in Chuo-cho.  
I like volleyball very much.  
I'm on the volleyball team.  
I play it every day.



**学年段階に応じて、より説得力のある意見文はどちらか？**などもできますね。

さて、実際の指導では、**読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫**させることも大切だよ。



伝える内容を整理し、より豊かな内容にするために、**生徒同士で話して伝える**ことを取り入れています。

いいね。**仲間から参考となる表現等も学べるし、技能統合も図られている**ね。その際に、**アドバイスする視点や付け加える視点を明確にしてあげる**といいね。次の例を見てごらん。



【例】【**単元ゴール**】「石川県で活躍するあこがれの人」について、自分の考えや気持ちが相手に**伝わるように書こう**  
【**付け加えさせたい表現**】  
・生き方から学んだこと、大切に思ったこと      ・自分と照らし合わせて思ったこと  
・自分が今後どうしていきたいかという決意



なるほど。最後は、**達成状況の把握**ですね。

今日は、ありがとうございました。



そう。ビフォー、アフターの把握だね。**生徒が自分の伸びや課題を把握**することが大切。それが**次の学びへの意欲**につながるね。





## Ⅱ 質問紙調査結果の分析・考察



# 1 小学校第4学年児童の調査結果

学校が好き、各教科等の勉強が好きと答えた児童の割合について、28年度同様、多くの教科で80%以上、高いものは90%を上回っている。また、国語、社会、理科の勉強が好きと答えた児童の割合は、調査開始以来最も高い。授業の内容がよく分かったと答えた児童の割合についても、28年度と同様に高いことから、全般的に小4児童の学習意欲は概ね良好である。

## 学びの12か条+ 4・5

- 「国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている」(83.4%)、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている」(93.0%)児童の割合はいずれも高い。

## 学びの12か条+ 8・9

- 家庭での学習習慣に関する項目は、全てにおいて28年度を上回っているが、中でも「自分で計画を立てて勉強している」(74.9%)、「学校の授業の予習をしている」(65.6%)、「学校の授業の復習をしている」(72.8%)児童の割合は、調査開始以来最も高い。
  - 「テレビを2時間以上見ている」(41.5%)児童の割合は年々減少しているが、「テレビゲームを2時間以上している」(21.7%)児童の割合は28年度と同程度である。一方で「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを1時間以上している」(11.8%)児童の割合は調査開始以来最も高く、今後も注意していく必要がある。
  - 「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」(84.1%)、「自分には、よいところがある」(82.4%)児童の割合は調査開始以来最も高く、小4児童の自己肯定感は28年度と同様に概ね良好である。
- 以上のことより、学力・学習を支える基盤づくりについては、概ね良好である。

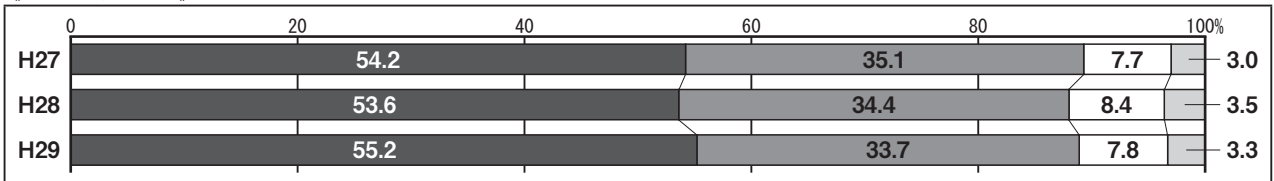
※無回答を除いた割合で示している。

# 1

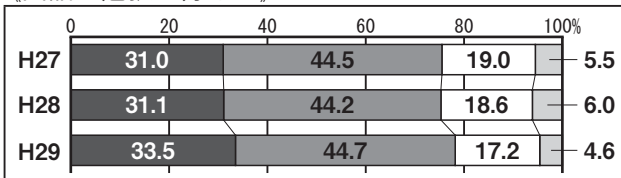
学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよくわかりますか。

あてはまる  
  どちらかといえばあてはまる  
  どちらかといえばあてはまらない  
  あてはまらない

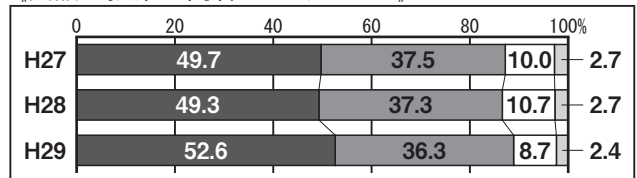
### 《学校は好きだ》



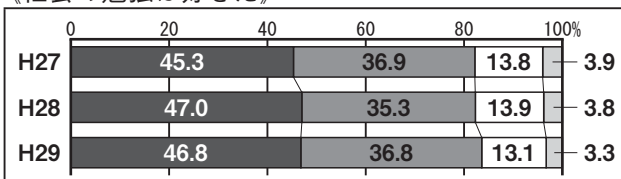
### 《国語の勉強は好きだ》



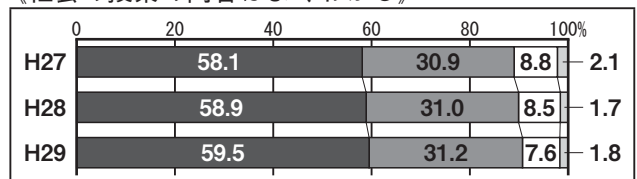
### 《国語の授業の内容はよくわかる》



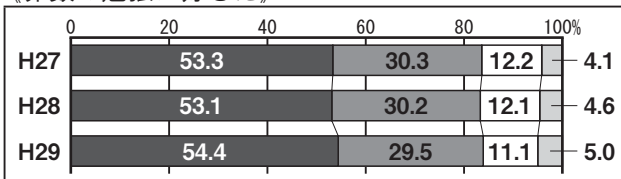
### 《社会の勉強は好きだ》



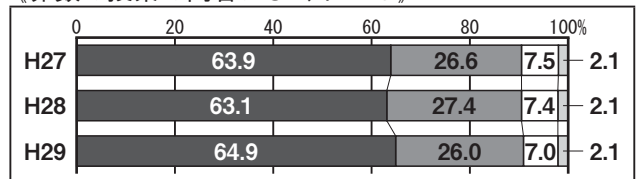
### 《社会の授業の内容はよくわかる》



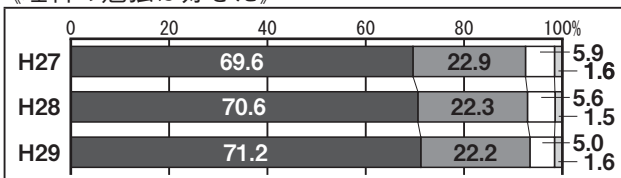
### 《算数の勉強は好きだ》



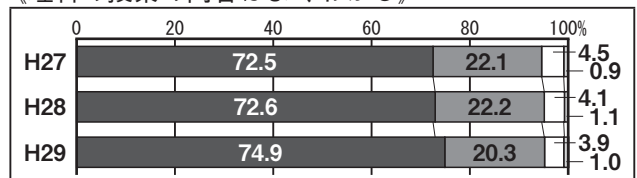
### 《算数の授業の内容はよくわかる》



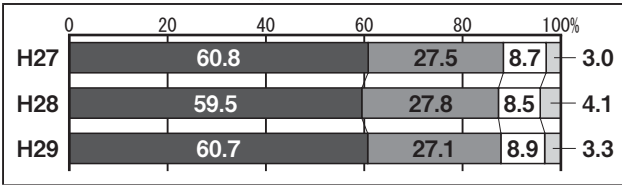
### 《理科の勉強は好きだ》



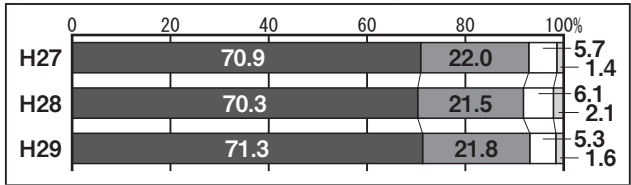
### 《理科の授業の内容はよくわかる》



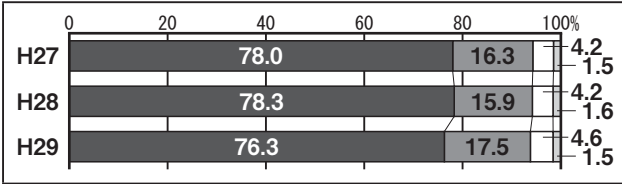
《音楽の勉強は好きだ》



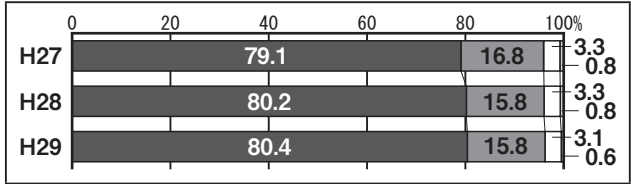
《音楽の授業の内容はよくわかる》



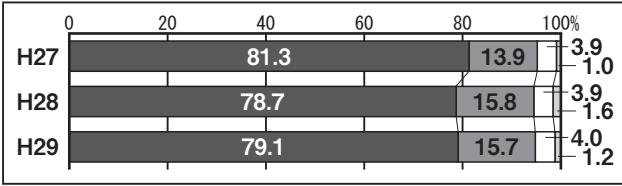
《図画工作の勉強は好きだ》



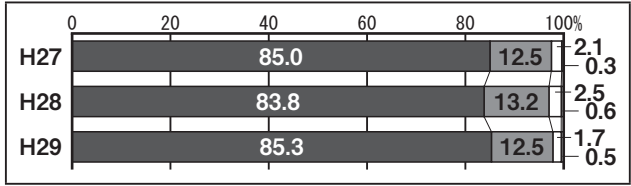
《図画工作の授業の内容はよくわかる》



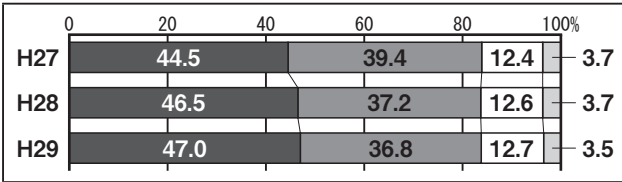
《体育の勉強は好きだ》



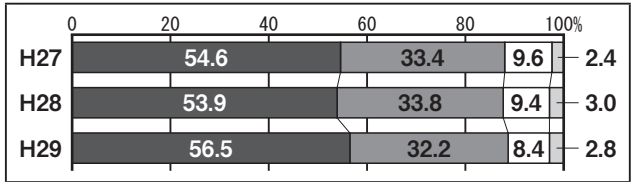
《体育の授業の内容はよくわかる》



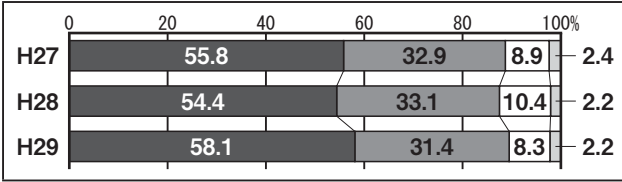
《道徳の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



《学級活動の時間は好きだ》

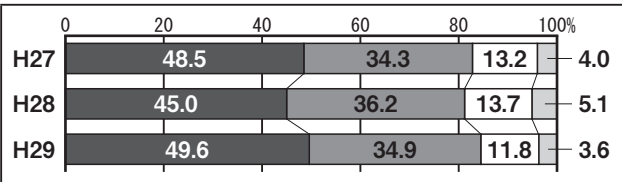


・《国語の勉強は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、78.2%であり、28年度より2.9ポイント増加し、調査開始以来最も高い。また《国語の授業の内容はよくわかる》について、肯定的な回答をした児童の割合は、88.9%であり、28年度より2.3ポイント増加している。

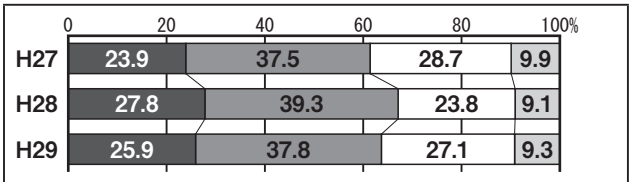
<参考>

《外国語活動の時間・英語の勉強は好きだ》

小6



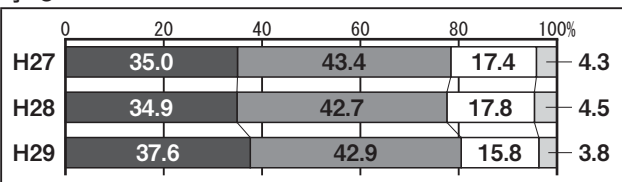
中3



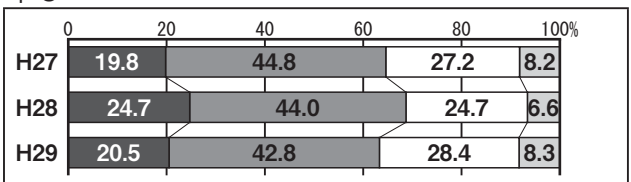
・《外国語活動の時間は好きだ》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で84.5%であり、調査開始以来最も高かった26年度と同程度である。

《道徳の時間は好きだ》

小6



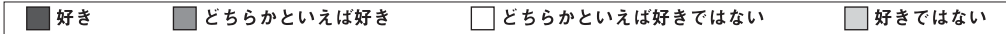
中3



・《道徳の時間は好きだ》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で80.5%であり、調査開始以来最も高い。

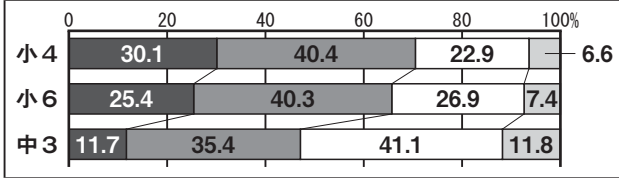
## 2

授業の中で次のようなことは好きですか。

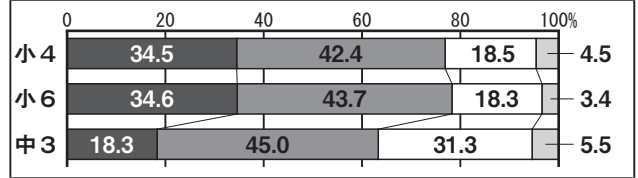


### <学年間比較>

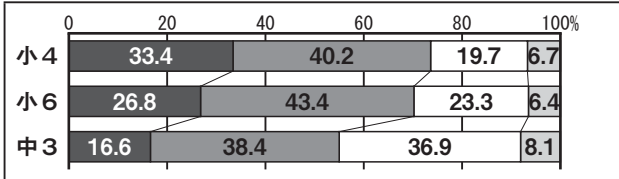
《自分の考えを發表したり，話し合ったりすること》



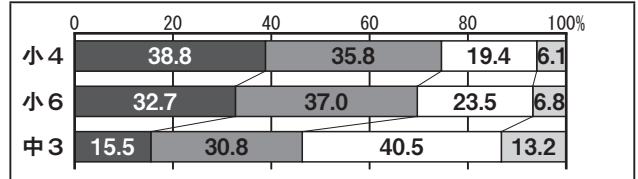
《課題について，自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



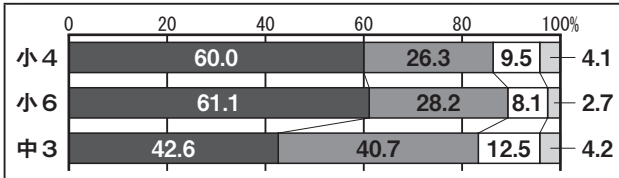
《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》



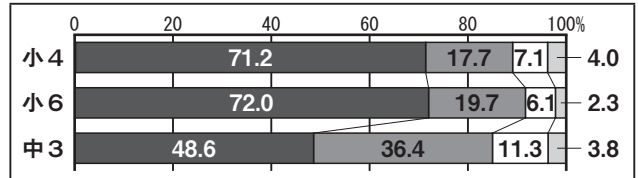
《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》



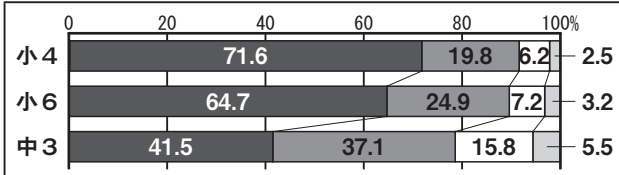
《少ない人数やグループで勉強すること》



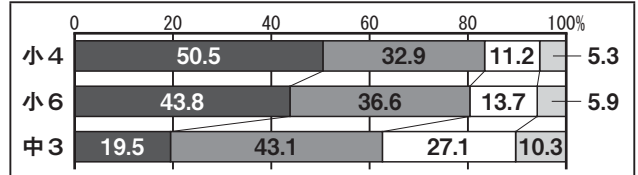
《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》



《図書館を使って勉強すること》



《地域の人や専門家が来て教えてくれること》

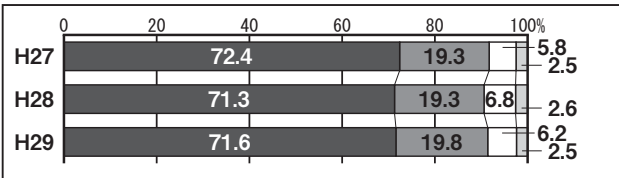


・《少ない人数やグループで勉強すること》《コンピュータやビデオ・DVDなど使って勉強すること》について，肯定的な回答をした児童生徒の割合は，83.3%～91.7%であり，いずれの学年においても高く，他の項目に比べて学年間の差が小さい。

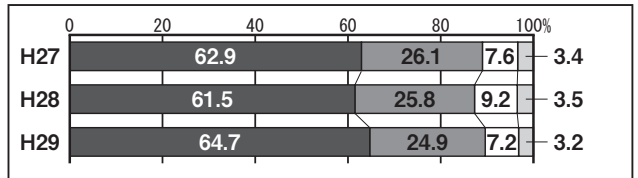
### <参考>

《図書館を使って勉強すること》

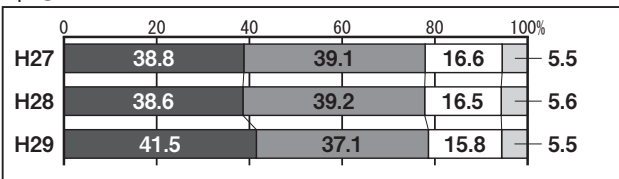
小4



小6



中3



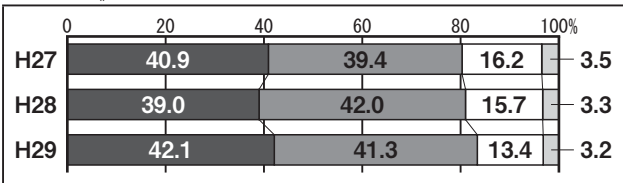
・《図書館を使って勉強すること》が「好き」と答えた児童生徒の割合は，28年度より小6で3.2ポイント，中3で2.9ポイント増加している。



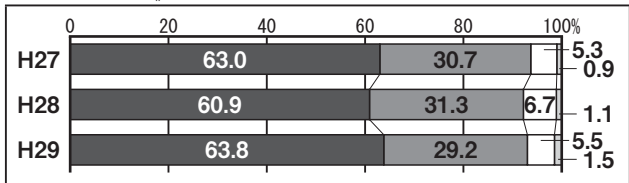
### 3 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

あてはまる
  どちらかといえばあてはまる
  どちらかといえばあてはまらない
  あてはまらない

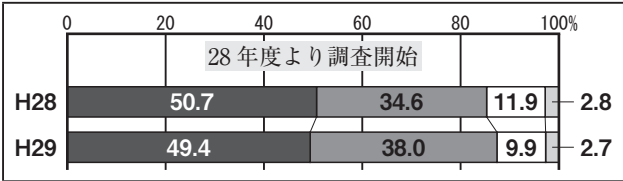
《国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている》



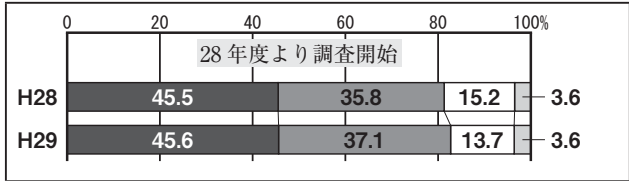
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



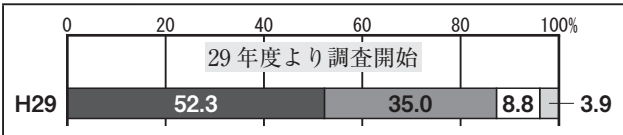
《授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う》（※ 28年度は「授業のはじめに〜」）



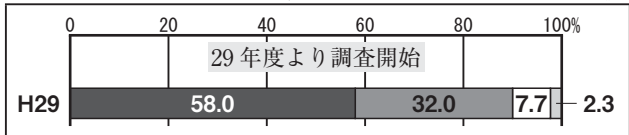
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



《先生は、あなたのよいところをわかっていると思う》



《先生は、授業やテストで間違えたところや、わからないところについて、わかるまで教えてくれる》

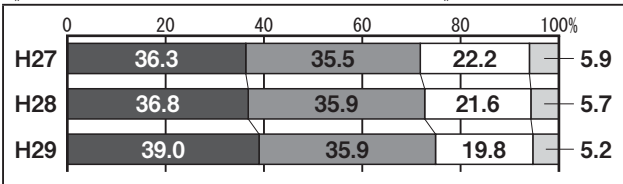


- ・《国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、83.4%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う》《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、87.4%、82.7%であり、28年度よりそれぞれ2.1ポイント、1.4ポイント増加している。（※ 28年度については「授業のはじめに目標が示されていたと思う」）
- ・《先生は、あなたのよいところをわかっていると思う》の項目については、p.68参照。

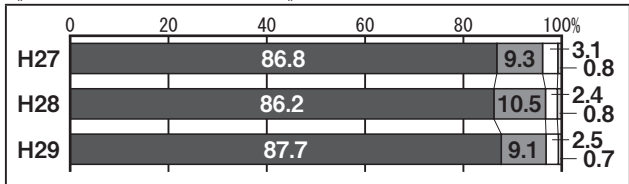
### 4 家で次のようなことをしていますか。

している
  どちらかといえばしている
  あまりしていない
  全くしていない

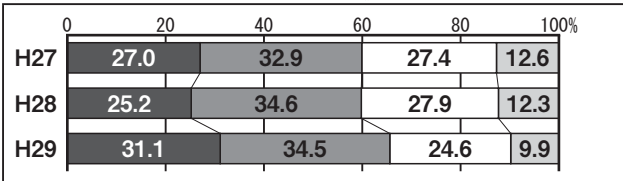
《自分で計画を立てて勉強をしている》



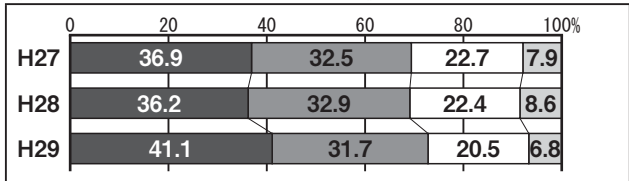
《学校の宿題をしている》



《学校の授業の予習をしている》



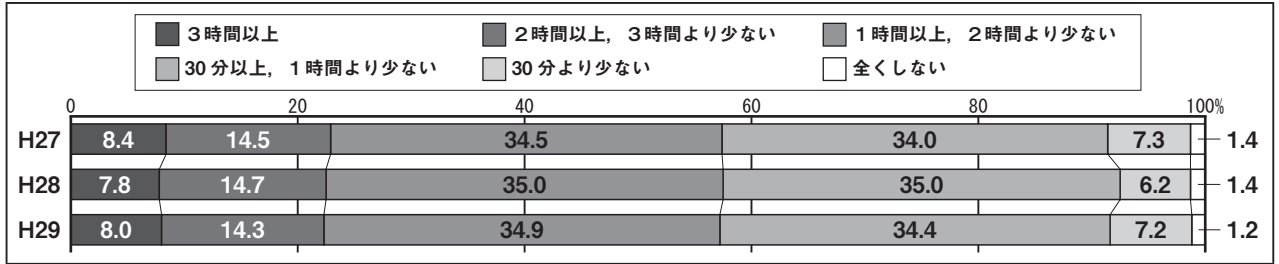
《学校の授業の復習をしている》



- ・《自分で計画を立てて勉強をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、74.9%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《学校の授業の予習をしている》《学校の授業の復習をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、65.6%、72.8%であり、28年度よりそれぞれ5.8ポイント、3.7ポイント増加し、調査開始以来最も高い。

# 5

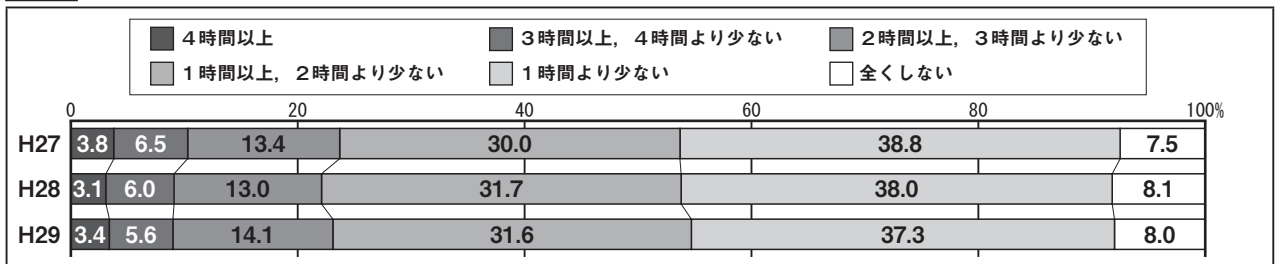
ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。



・家庭学習時間について、平日に1時間以上勉強すると答えた児童の割合は57.2%、30分以上勉強すると答えた児童の割合は91.6%であり、これまでと同様に高い。

# 6

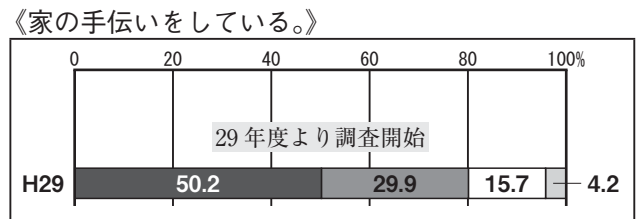
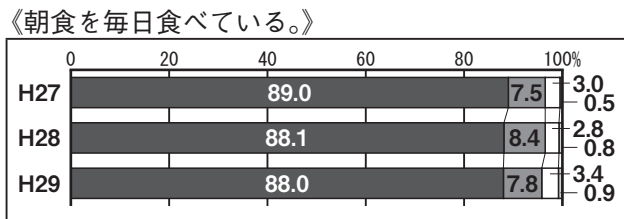
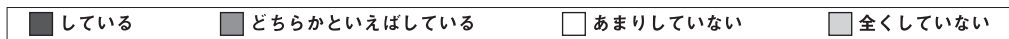
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。



・土・日曜日に1時間以上勉強すると答えた児童の割合は、54.7%であり、調査開始以来最も高いが、平日に1時間以上勉強する児童の割合より低い。

# 7

生活の中で次のようなことをしていますか。

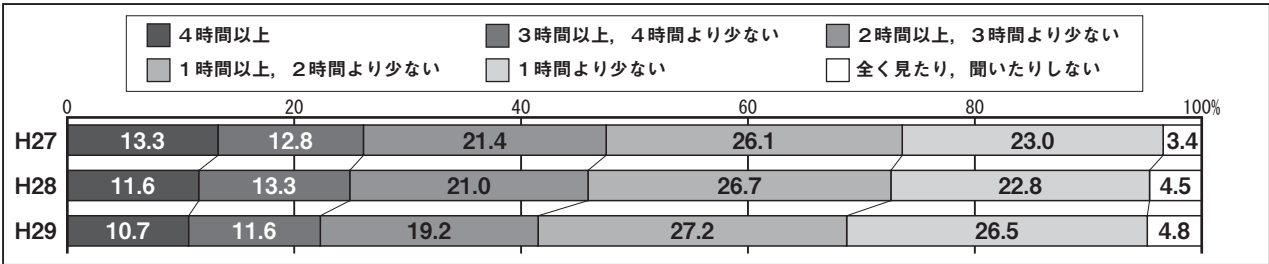


・《朝食を毎日食べている》について、肯定的な回答をした児童の割合は95.8%であり、これまでと同様に高い。

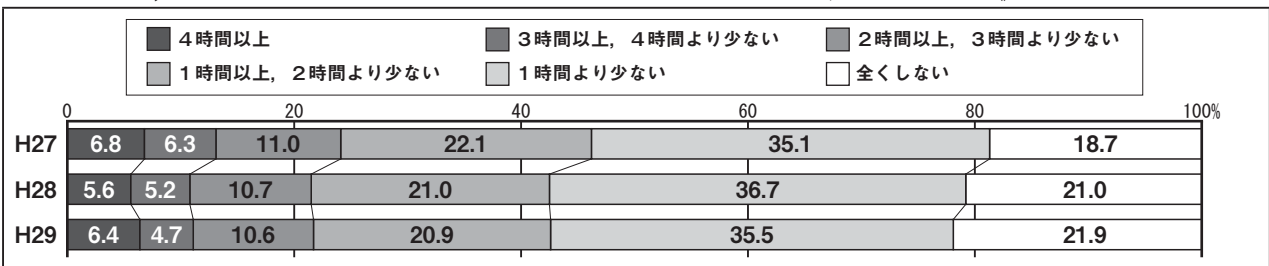
・《家の手伝いをしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、80.1%である。

# 8

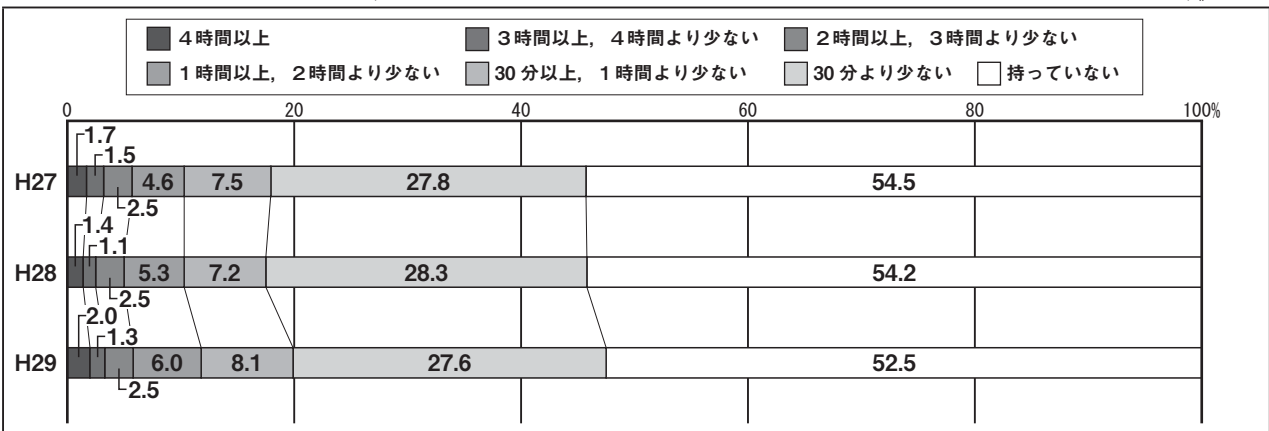
《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD を見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除きます。）》



《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。》



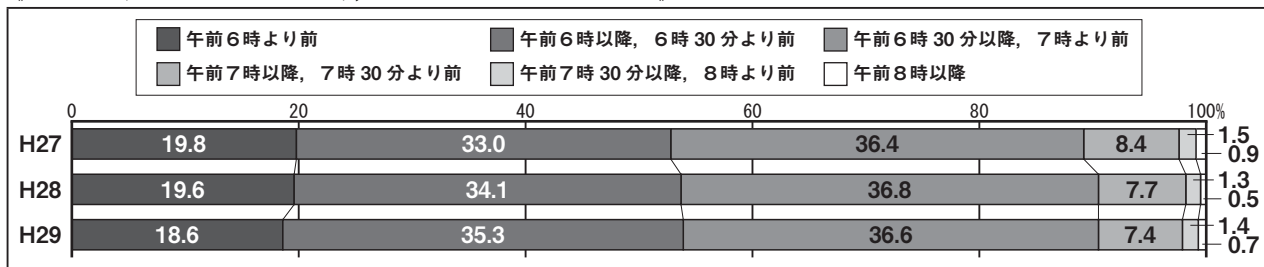
《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》



- ・ 普段のテレビ等の視聴時間について、「2時間以上」と答えた児童の割合は、41.5%であり、調査開始以来最も低い。また、「1時間より少ない」と答えた児童の割合は、31.3%であり、調査開始以来最も高い。
- ・ 普段のテレビゲーム等の使用時間について、「2時間以上」と答えた児童の割合は、21.7%であり、28年度と同程度である。
- ・ 普段の携帯電話やスマートフォンの使用時間について、「30分以上」と答えた児童の割合は、19.9%であり、調査開始以来最も高い。

# 9

《ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろに起きますか。》



《ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろにねますか。》



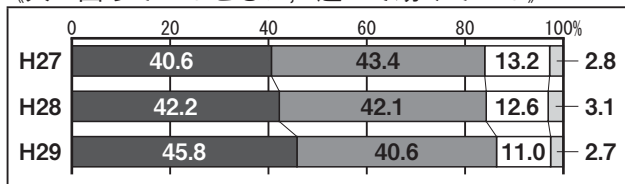
- ・ 普段の起床時刻について、午前7時より前に起きる児童の割合は、90.5%であり、調査開始以来最も高かった28年度と同程度である。
- ・ 普段の就寝時刻について、午後10時より前に寝る児童の割合は、68.1%であり、28年度と同程度である。

# 10

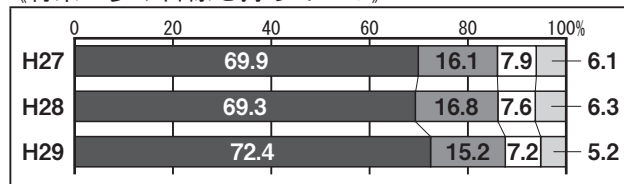
次のことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。



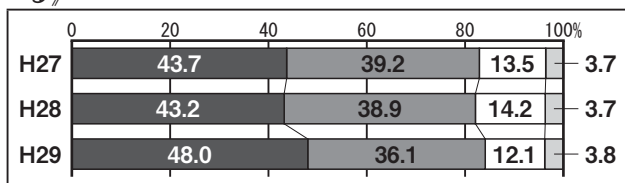
《人が困っているときは、進んで助けている》



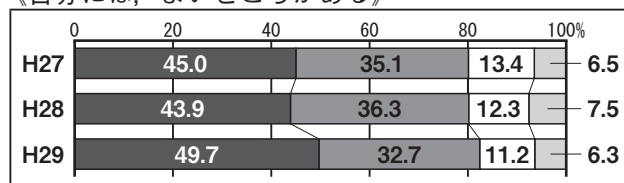
《将来の夢や目標を持っている》



《難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している》



《自分には、よいところがある》



- ・ 《人が困っているときは、進んで助けている》《将来の夢や目標を持っている》《難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している》《自分には、よいところがある》について、肯定的な回答をした児童は28年度と同程度だが、それぞれ「あてはまる」と積極的な回答をした児童は28年度より3.1～5.8%増加し、調査開始以来最も高い。

## 2 学習・生活状況と正答率との関係

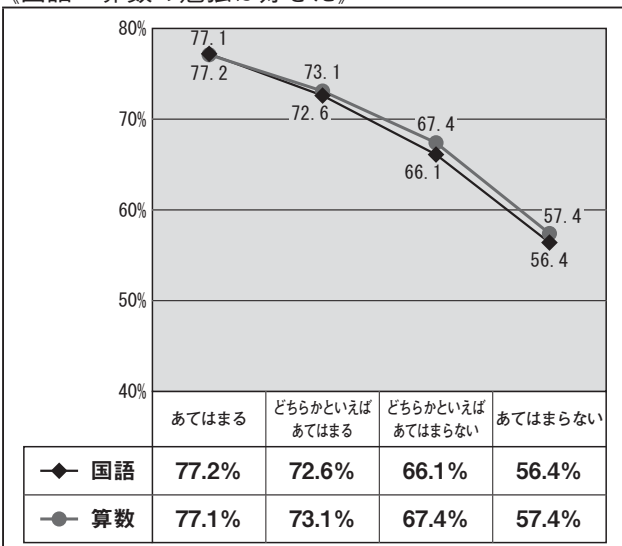
○小4児童の学習生活状況について、以下と回答している児童の方が、教科（国語・算数）の正答率が高い傾向が見られる。

- ・国語・算数の勉強は好きだ。
- ・国語・算数の授業の内容はよくわかる。
- ・課題について、自分の考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強することが好きだ。
- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている。
- ・授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う。
- ・授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。
- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。
- ・学校の宿題をしている。
- ・ふだん（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が少ない、または携帯電話やスマートフォンを持っていない。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

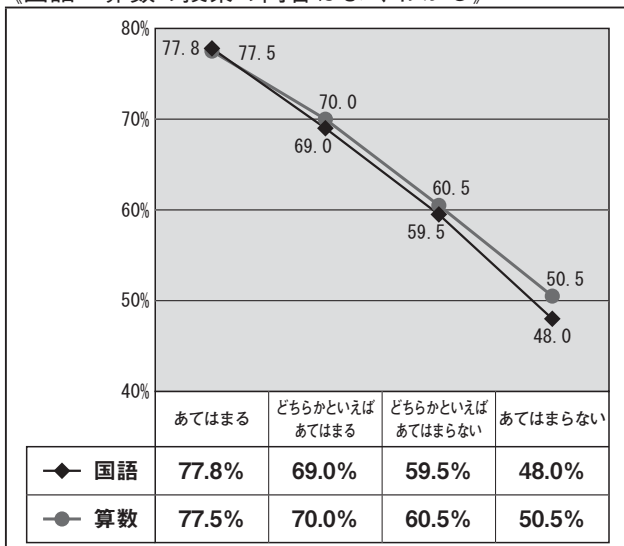
○小4児童の各教科の正答率や学習・生活状況に関する項目の関係を分析すると、次のようにまとめられる。

- ・これまでと同様に、国語と算数の正答率は相互に関連が強い。
- ・各教科の勉強が好きという項目と授業内容がよく分かるという項目の回答は、関連がある。

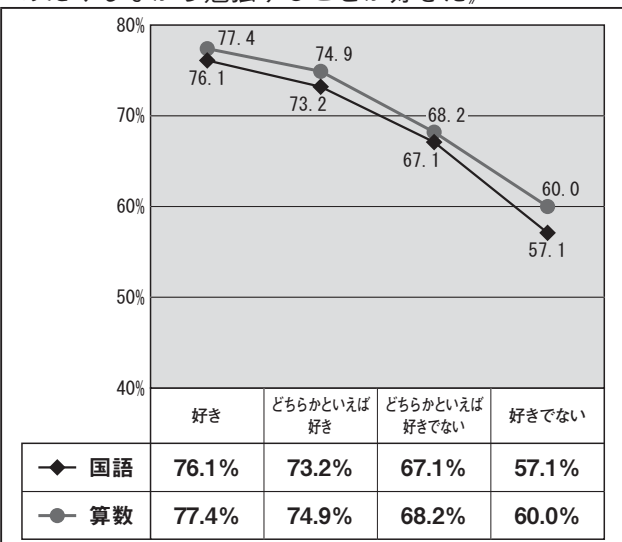
《国語・算数の勉強は好きだ》



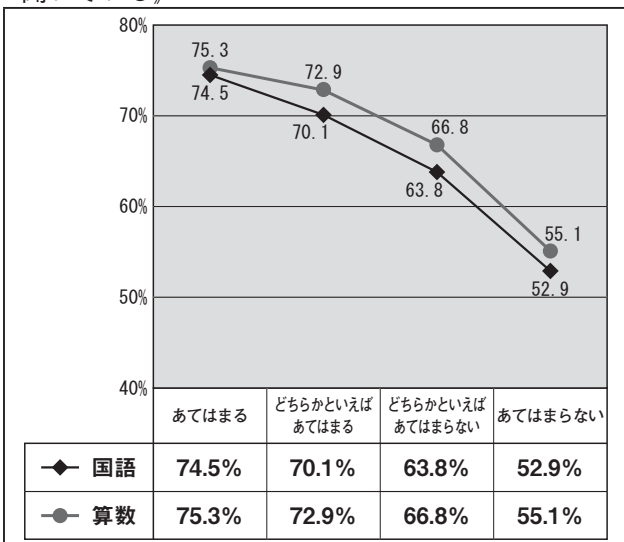
《国語・算数の授業の内容はよくわかる》



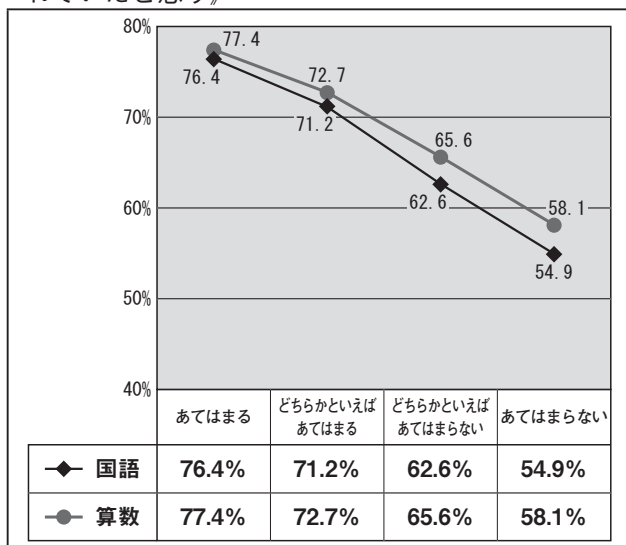
《課題について、自分の考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強することが好きだ》



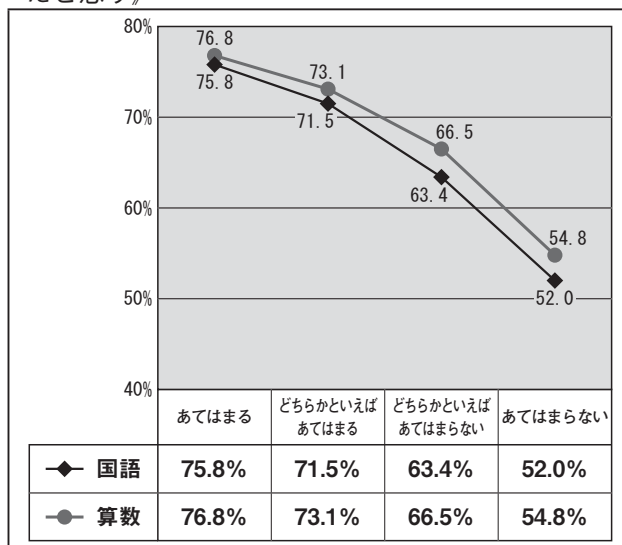
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



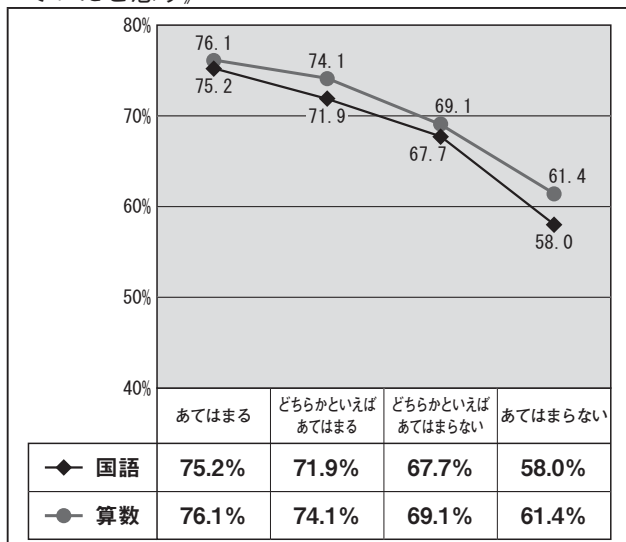
《授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う》



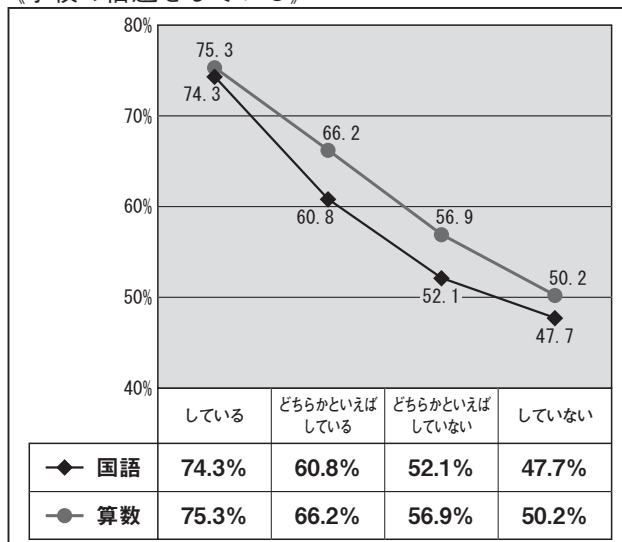
《授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う》



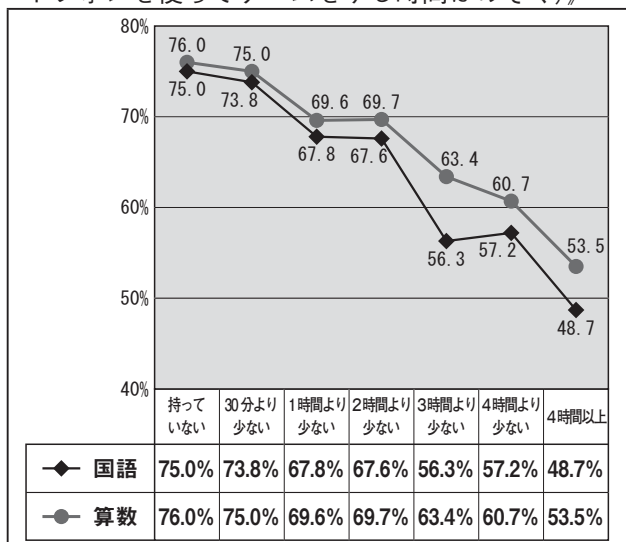
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



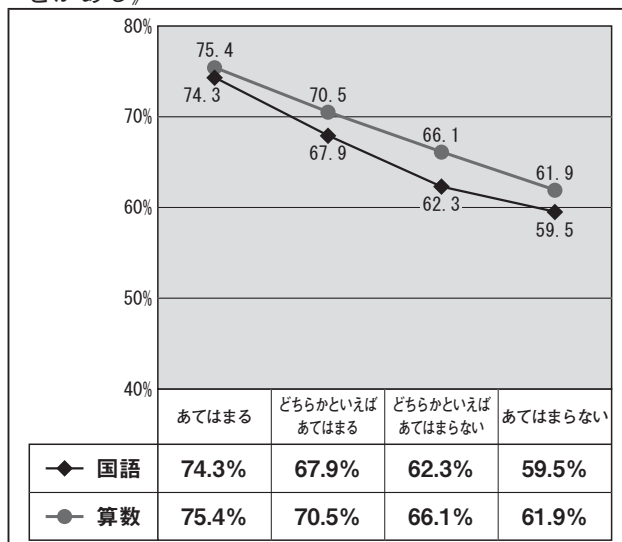
《学校の宿題をしている》



《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく）》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》





### 3 教員の調査結果

「1 学力の重要な要素に関すること」について、肯定的な回答をした教員の割合は、それぞれ90%以上であり（小学校で96.4%～99.3%，中学校で91.6%～96.7%），学力の向上に向けた教員の意識は概ね良好である。

#### 学びの12か条+ 1～3

- 「児童生徒の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は，小学校では98.1%，中学校では96.4%であり，これまでと同様に高い。
- 「問題解決的な学習，実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して，活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている」教員の割合は，小学校では96.4%，中学校では91.6%であり，これまでと同様に高い。
- 「考えの根拠や筋道を明確にして，説明や論述ができるように指導をしている」教員の割合は，小学校では94.4%，中学校では82.0%と調査開始以来最も高い。

#### 学びの12か条+ 6～8

- 「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して，学び合う場を設けている」教員の割合は，小学校で98.5%，中学校で92.9%であり，これまでと同様に高い。
- 「児童生徒がコンピュータなどを使う学習活動を取り入れた指導をしている」教員の割合は，28年度と比較して，小学校では8.5ポイント増加している。
- 「授業の内容と関連させて，調べさせたり，発展的に考えさせたりするための宿題を出している」教員の割合は，28年度と比較して，小学校で8.8ポイント，中学校で4.1ポイント，それぞれ増加している。

#### 学びの12か条+ 10・11

- 「自校の『学力向上プラン』に基づく指導をしている」教員の割合は，小学校で96.8%，中学校で91.2%であり，これまでと同様に高い。

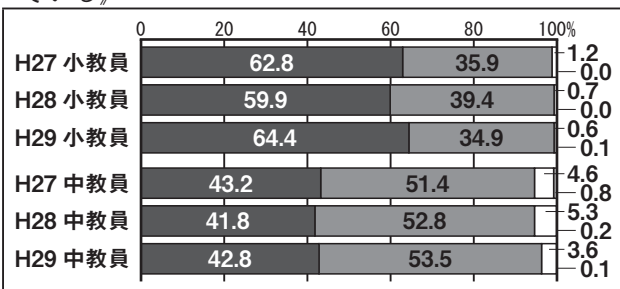
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

次の指導等を，昨年度からどの程度行っていますか。

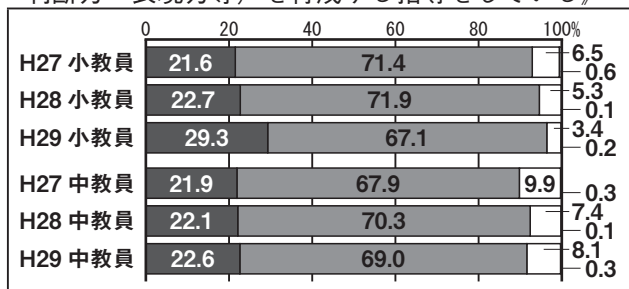


## 1 学力の重要な要素に関すること

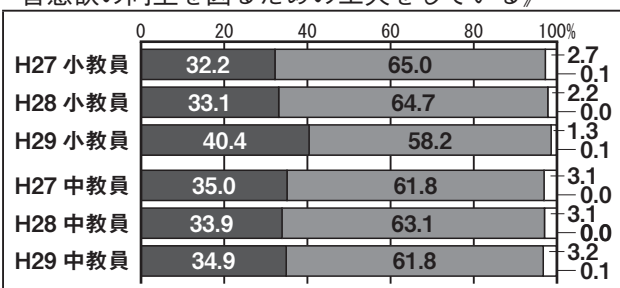
《繰り返し学習（音読，暗記・暗唱，反復学習など）を通して，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習，実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して，活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている》



《課題設定や授業展開，教材・教具の開発など，学習意欲の向上を図るための工夫をしている》



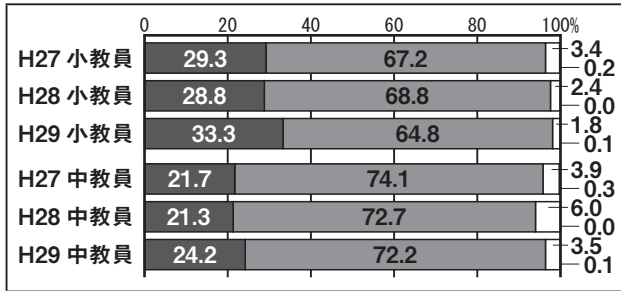
＜28年度と比べて上昇した項目＞

・《活用力を育成する指導をしている》《学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について，「よくしている」と積極的な回答をした小学校教員の割合は，それぞれ6.6ポイント，7.3ポイント増加している。

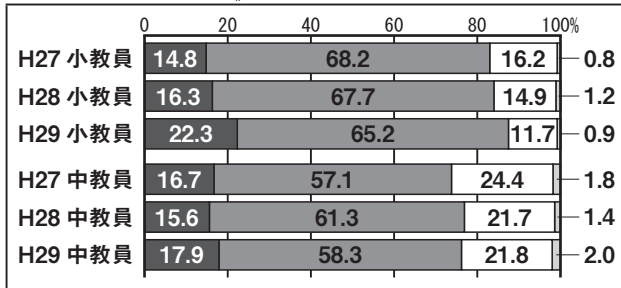
## 2

### 教科等に関すること

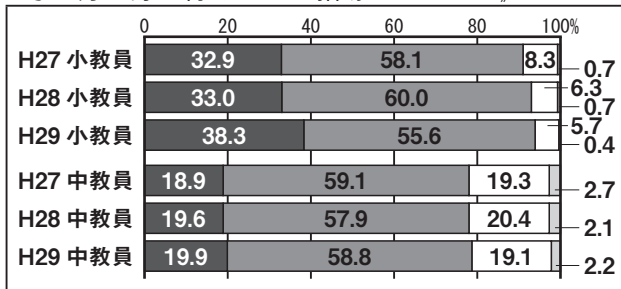
《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》



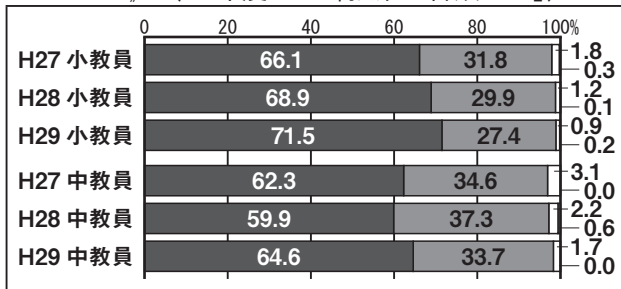
《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》



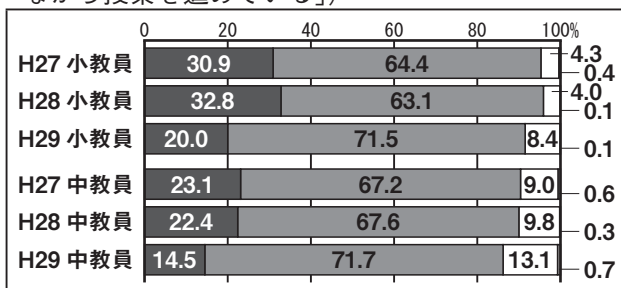
《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けさせる指導をしている》



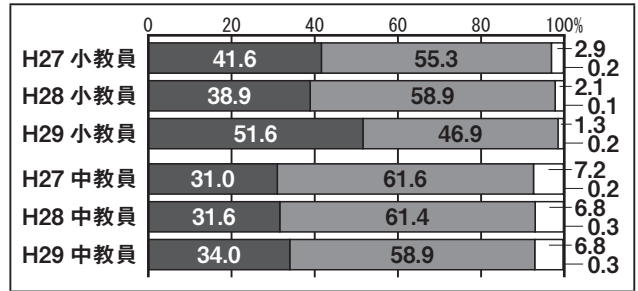
《授業の中で目標（めあて・狙い）を児童生徒に示している》（28年度まで「授業の冒頭で～」）



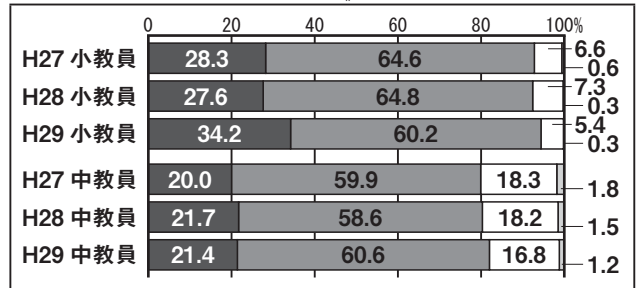
《授業において、明確な評価規準を基に児童生徒の定着状況を把握し、学習指導の改善に生かしている》（28年度まで「児童生徒の学習状況を評価しながら授業を進めている」）



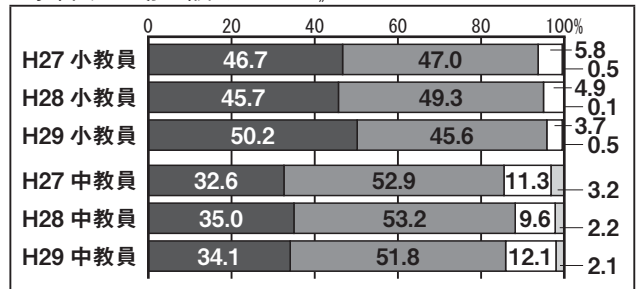
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》



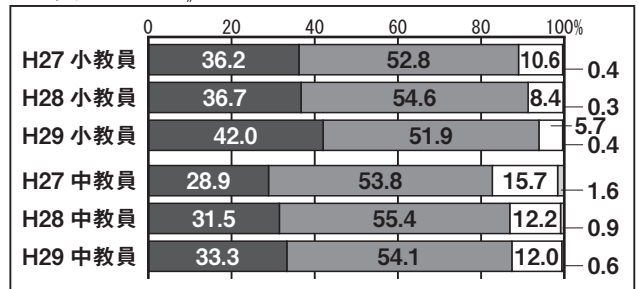
《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている》



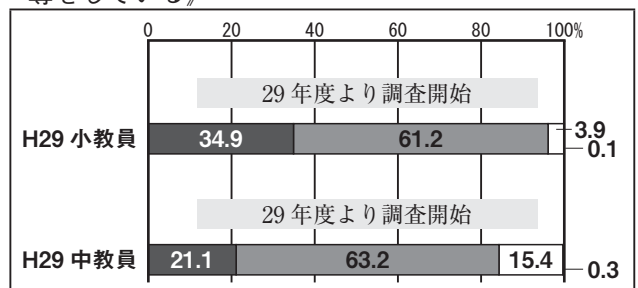
《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



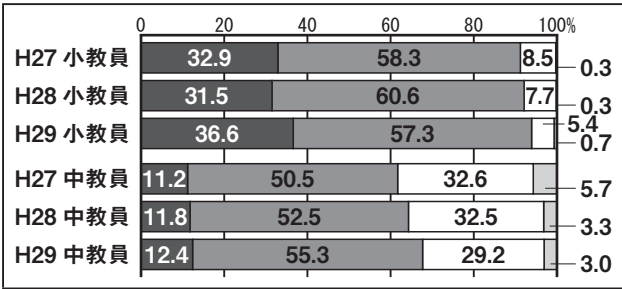
《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》



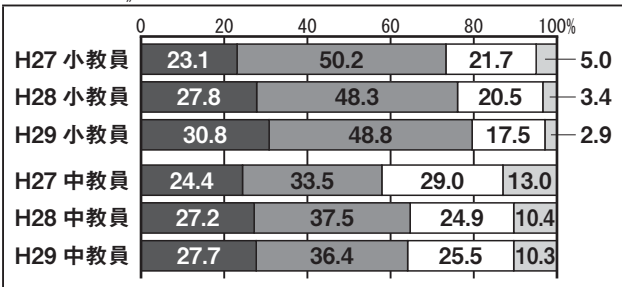
《授業において、児童生徒一人一人に自分の成長や変容を自覚させるなど、自信を持たせるような指導をしている》



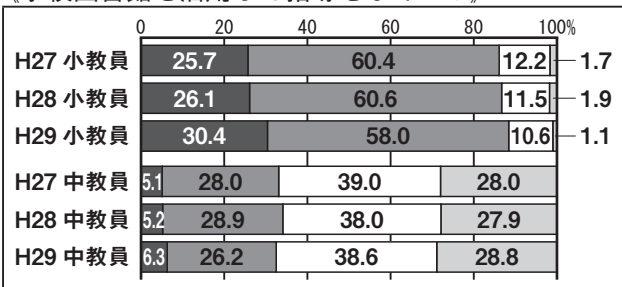
《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補足的な学習の指導をしている》



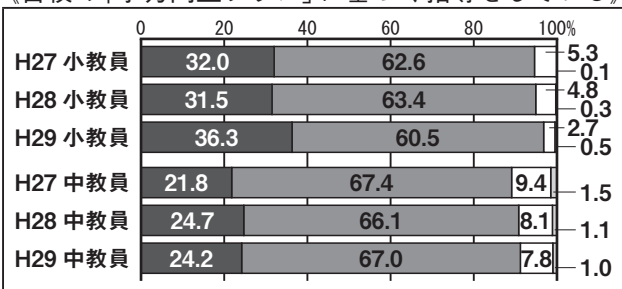
《コンピュータなどを使って、資料を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている》



《学校図書館を活用した指導をしている》



《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



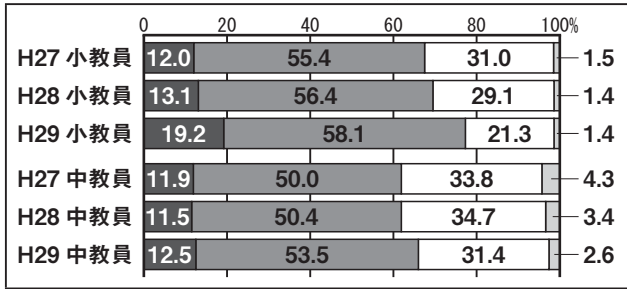
＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

・《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》《授業の中で目標を児童生徒に示している》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.1～98.9%、中学校で92.9～98.3%であり、これまでと同様に高い。

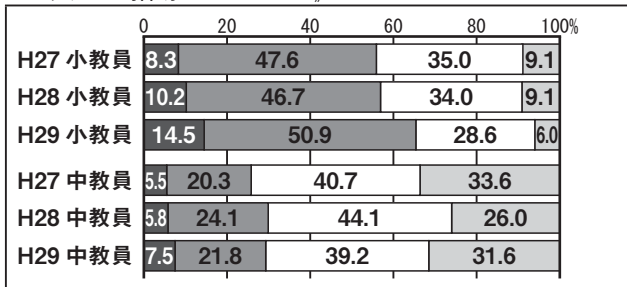
＜28年度と比べて上昇した項目＞

- ・《個に応じた指導として、習熟の遅い生徒に、補足的な学習の指導をしている》について、肯定的な回答をした中学校教員の割合は、28年度より3.4ポイント増加している。
- ・《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、28年度より小学校で7.8ポイント、中学校で4.1ポイント、それぞれ増加している。
- ・小学校においては、以下の項目について、「よくしている」と積極的に回答した教員の割合の増加が顕著である。
  - 《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》……51.6% (12.7ポイント増加)
  - 《考えの根拠や道筋を明確にして、説明や論述ができるように指導している》……34.2% (6.6ポイント増加)
  - 《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けさせる指導をしている》……38.3% (5.3ポイント増加)

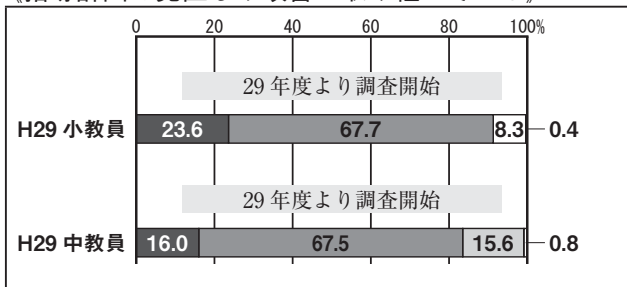
《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



《児童生徒がコンピュータなどを使う学習活動を取り入れた指導をしている》



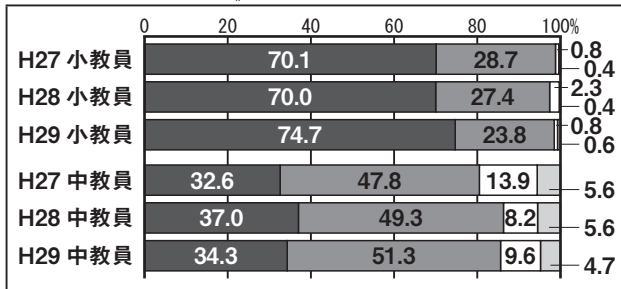
《指導計画の見直しや改善に取り組んでいる》



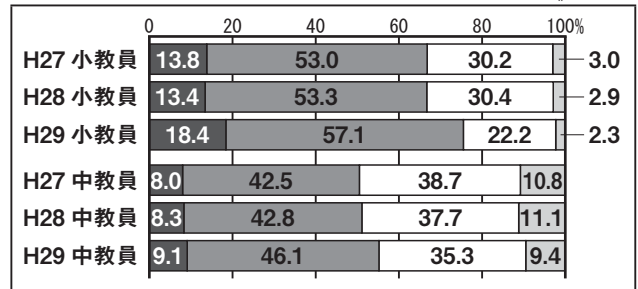
### 3

#### 家庭学習に関すること

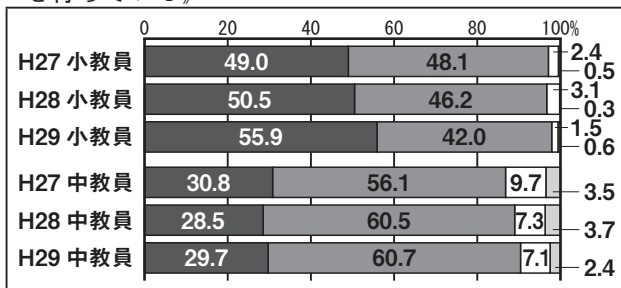
《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》



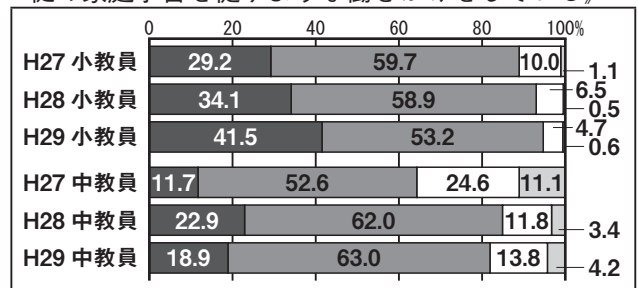
《授業の内容と関連させて、調べさせたり、発展的に考えさせたりするための宿題を出している》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》



《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》



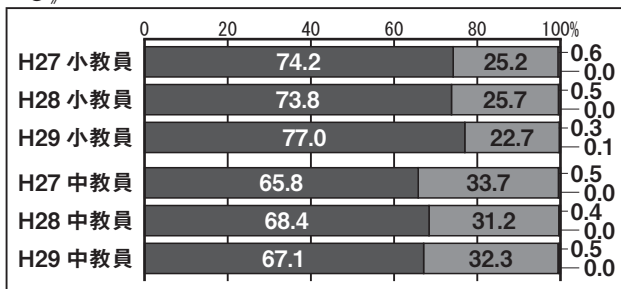
＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

・《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》について、肯定的な回答をした小学校教員の割合は、それぞれ98.5%、97.9%であり、これまでと同様に高い。

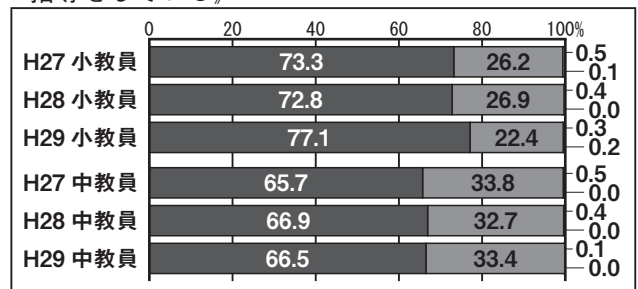
### 4

#### 学習規律等に関すること

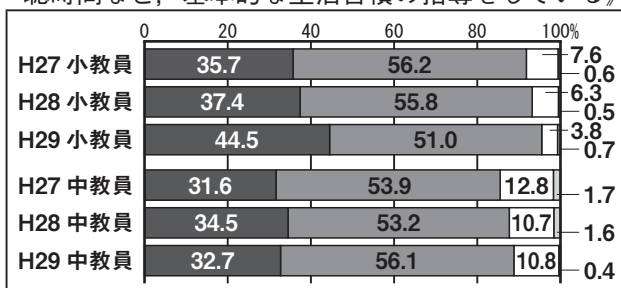
《私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている》



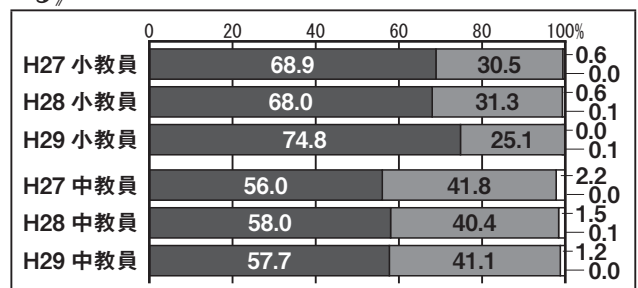
《児童生徒に、校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》



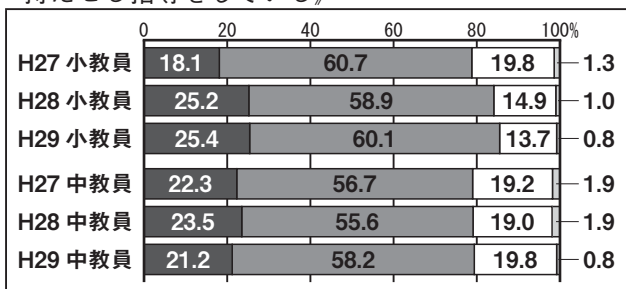
《児童生徒に、早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など、基本的な生活習慣の指導をしている》



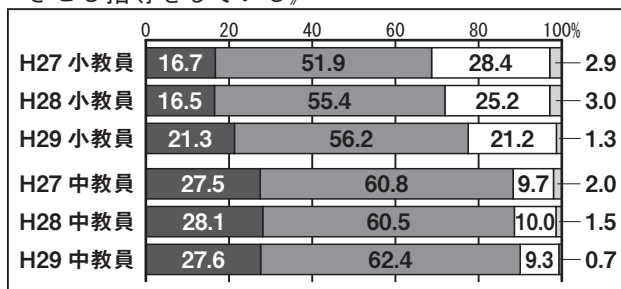
《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》



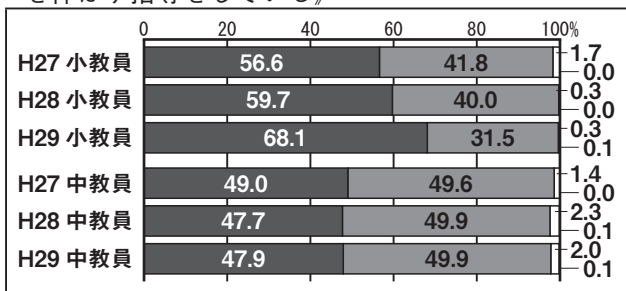
《地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を  
持たせる指導をしている》



《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考え  
させる指導をしている》



《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所  
を伸ばす指導をしている》



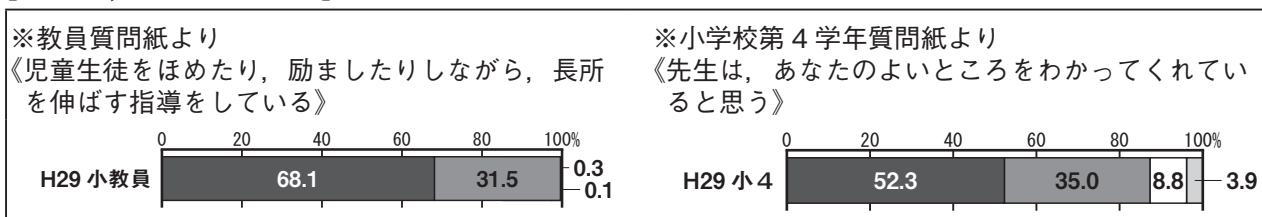
＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

・《私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている》《児童生徒に、校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.5～99.9%、中学校で98.8～99.9%であり、これまでと同様に高い。

＜28年度と比べて上昇した項目＞

・《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、28年度より小学校で5.7ポイント、中学校で1.4ポイント増加している。

【その他、留意する項目】



・《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.6%であり、これまでと同様に高い。しかし、小学校第4学年児童の調査結果では、《先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、87.3%である。



# 改訂 いしかわ学びの指針12か条【<sup>プラス</sup>学びの12か条+】

## 活用力を高める授業づくり

### 1. 物事を多様な観点から考察する力の育成

- ◇得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
- ◇他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方・受け取り方が身に付くようにする

### 2. 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

- ◇知識・技能を活用して主体的・協働的に課題解決に取り組む学習【アクティブ・ラーニング】を進める
- ◇各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

### 3. 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- ◇考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- ◇思考の過程が分かる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

## 学力・学習を支える基盤づくり

### 4. 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成

- ◇目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
- ◇相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う態度や姿勢が身に付くようにする

### 5. 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成

- ◇目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
- ◇文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする

### 6. よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視

- ◇多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
- ◇目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする

### 7. 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進

- ◇メディアの特性を生かした授業づくりを進める
- ◇学校・地域にあるリソースを生かし、ICTの活用スキルの確実な定着を進める

### 8. よりよい学習習慣・生活習慣の定着

- ◇家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣づくりを推進する
- ◇豊かな思考・判断の基盤となる子どもの語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する

### 9. 家庭や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの促進

- ◇家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
- ◇社会の出来事に関心をもたせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識をもつことができるようにする

## 指導改善を進める体制づくり

### 10. 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進

- ◇学校全体で目的を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
- ◇小中連携を推進し、指導の連続性を図る

### 11. 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

- ◇児童生徒の現状把握から原因を究明し、目標に照らした課題とその解決に向けた具体策を設定する
- ◇中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向けスモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】

### 12. 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

- ◇学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し、情報公開に努め、目標や課題を共有する
- ◇地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域で子どもを育てる環境づくりを進める

平成 29 年度

「基礎学力調査」—分析・考察—

平成 29 年 10 月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地

TEL.076-225-1827

e-mail : [gakusi@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:gakusi@pref.ishikawa.lg.jp)